

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●

## 中国教職員招へいプログラム

# 実施報告書

第1班：2014年10月19日(日)－10月27日(月)

第2班：2014年11月16日(日)－11月24日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)  
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●

中国教職員招へいプログラム

## 実施報告書

第 1 班：2014 年 10 月 19 日(日) — 10 月 27 日(月)

第 2 班：2014 年 11 月 16 日(日) — 11 月 24 日(月)

国 際 連 合 大 学 (UNU)  
公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)



## はじめに

国際連合大学(United Nations University)は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取り組みに、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。本事業のもと、同年、日中国交正常化30周年を記念した「中国教職員招へいプログラム」が開始され、同大学からの委託を受けてユネスコ・アジア文化センター(ACCU)が実施を担当し、これまで1,400名近い中国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・中国教職員招へいプログラムは、第1班を2014年10月19日(日)より27日(月)までの9日間、第2班を2014年11月16日(日)より24日(月)までの9日間にわたり、中国の小・中・高等学校の教職員等97名(第1班:34名、第2班:63名)を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、中国政府教育部、日本の文部科学省と外務省、東京都多摩市、熊本県荒尾市、長崎県長崎市の各教育委員会、訪問先の学校、その他教育・文化機関等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2015年3月

国際連合大学

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター



# 目次

## 第Ⅰ章 実施内容

1. 第1班プログラム
  - 1-1. 全体プログラム(東京) ..... 5
  - 1-2. グループ・プログラム(Aグループ:東京都多摩市) ..... 8
2. 第2班プログラム
  - 2-1. 全体プログラム(東京) ..... 13
  - 2-2. グループ・プログラム(Bグループ:熊本県荒尾市) ..... 17
  - 2-3. グループ・プログラム(Cグループ:長崎県長崎市) ..... 21
  - 2-4. 全体プログラム(福岡) ..... 25

## 第Ⅱ章 コメントと提案

1. 中国教職員 ..... 31
2. 受入れ教育委員会 ..... 45
3. 受入れ学校 ..... 47

## 付録

1. 実施要項 ..... 59
2. プログラム日程 ..... 62
3. 参加者リスト ..... 68
4. 関係機関リスト ..... 71
5. 文部科学省講義資料 ..... 73
6. 過去のプログラム実績 ..... 79



# 第I章 実施内容

1. 第1班プログラム
2. 第2班プログラム





# 1. 第1班プログラム

## 1-1. 全体プログラム（東京）

### (1) 来日、オリエンテーション

「中国教職員招へいプログラム」の参加者34名が、第一陣として、2014年10月19日（日）に来日した。

同日、滞在先の第一ホテル両国5階「清澄」にて、オリエンテーションが行われた。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部部長の佐々木万里子から参加者に歓迎のあいさつの後、ACCU担当スタッフが紹介された。最後にACCU職員よりプログラム日程説明や滞在ガイダンスなどが行われた。

### (2) 文部科学省訪問・講義

プログラム第2日の10月20日（月）午前、一行は文部科学省を表敬訪問した。到着すると、大臣官房国際課国際協力企画室人物交流専門官の柿本晃治郎氏の出迎えを受け、今回の訪日を通じて、日本の学校教育とともに、日本の社会や文化についても理解を深めて、日本と中国の教育交流の架け橋となっていくことを期待する、と歓迎のあいさつがあり、訪問団を代表して団長の祁品偉(QI Pinwei)氏からは、学校や文化施設の訪問を通じて日本の基礎教育について学ぶことは、中国の基礎教育の発展にとって非常に有意義であり、本プログラムを通して日中両国の教育水準を高め、日中の友好を築きたい、との返礼のあいさつがあった。

表敬訪問終了後、同会場にて、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課の栗山和夫専門官（併）企画係長から「日本の初等中等教育」についての講義が行われた。

講義内容は以下の通りである。

#### I. 日本の基本的な初等中等教育制度

- ・学校数、在籍者数、本務教員数
- ・在籍者数、就園率・就学率の経年変化
- ・義務教育制度の概要

- ・教育行政制度の概要
- ・教育委員会制度の概要
- ・教育基本法の概要
- ・学校指導要領
- ・教員養成・免許制度の概要

#### II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

- ・日本の現状に対する認識
- ・これから求められる力
- ・現状認識を踏まえた教育政策



正面玄関前で記念撮影（文部科学省）

### (3) 歓迎交流会・東京

同日夕方、第一ホテル両国の4階「楓」において歓迎交流会が開催された。国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏、文部科学省国際統括官の加藤重治氏、外務省大臣官房国際文化交流審議官の新見潤氏、中華人民共和国駐日本国大使館公使参事官の白剛（BAI Gang）氏ほか、ACCUからは高坂節三理事が出席した。

岩佐氏からは、限られた期間ではあるが、日本の学校への理解が進み、これを機会に日中の学校間での継続的な交流につながることを期待する、とのあいさつがあった。続いて、加藤統括官より、日本で感じたこと、日本の教育でよいと思ったことなどのさまざまな体験を、帰国後、皆様方が指導されている子供たちや同僚の先生方にお伝えいただき、多くの方に日本を知って欲しい、とのあいさつがあった。白公使参事官からは、本プログラムでの成果を自国で

の教育現場で生かして欲しい、とのあいさつが送られた。

各代表あいさつの後、中国教職員訪問団を代表し、湖北省教育庁対外協力交流センター調査研究員の祁品偉(QI Pinwei)団長から返礼のあいさつがあった。

記念品交換の場では、国際連合大学の岩佐大学院事務局長から訪問団団長の祁氏へ記念品が贈られ、祁団長からも記念品が贈呈された。続いて、今回の訪問団の秘書長である馬力(MA Li)氏へ文部科学省の加藤統括官から記念品贈呈が行われ、馬氏からも記念品が贈られた。

ACCU の高坂理事の乾杯の音頭で、食事と歓談がはじまり、訪問団員たちは和やかに懇談に興じていた。



日本側の来賓と歓談（歓迎交流会）

#### (4) 東京都内近郊学校訪問

##### —A グループ—

##### 埼玉大学教育学部附属中学校

プログラム第3日の10月21日（火）午前、一行は埼玉大学教育学部附属中学校を訪問した。同校は、埼玉大学教育学部に附属する中学校として1947年に設立された。埼玉大学教育学部の学生の養成や教育実習での学生指導を実施し、学習指導の研究を推進する役割を担っている。1979年からは、帰国生徒教育にも取り組み、現在38名の帰国生徒が在籍している。海外在留によって身につけた能力を生かせるよう指導している。

学校に到着後、埼玉大学教育学部教授でもある首藤敏元校長より、歓迎の言葉が述べられた後、牛久裕介副校長による学校概要説明があった。その後、2グループに分かれて授業参観および施設見学を行った。美術、理科、技術家庭、英語など授業を見学し、漢字からイメージを派生させ、言葉や図を書く美術の授業には、団員が非常に関心を寄せる様子が伺えた。また、廊下の壁に掲示してある、生徒が製作した幼児のおもちゃや防災についてのレポートには感心する様子が伺えた。休憩を挟み、教員との意見交換が行われた。学校の運営費や教員の勤務体系、生徒の評価の方法など、訪問団から多数の質問があがり、有意義な意見交換ができた。最後に訪問団代表が受入れへのお礼を述べ、同校へ記念品を贈呈した。



熱心に話を聞く団員ら  
(埼玉大学教育学部附属中学校)

## 星美学園小学校

午後は東京都北区にある星美学園小学校を訪問した。同校はカトリック・ミッションスクールとして、1946年にヨハネ・ボスコによって創設された。創立者の教育理念（信仰・慈愛・理性）による「愛に根ざした教育」に基づき、神と人の前に清く正しく晴れやかに生きる誠実な児童を育成することを目指し、「清い心」「たゆまぬ努力」を校訓に掲げた教育を行っている。

到着すると、森内直子校長をはじめとする教職員の出迎えを受け、全校児童による歓迎会が催された。中国語による児童代表のあいさつやダンス、歌などが披露され、訪問団員一人ひとりに児童から手作りのメダルが贈られた。また、訪問団代表からもお礼の言葉が述べられ、中国に関するクイズを出すなど、児童たちと交流を楽しむことができた。

続いて2グループに分かれ、国語、算数、理科、英語、音楽、体育などさまざまな授業を参観し、校内の施設見学を行った。休憩を挟み、竹内幸夫教頭による学校概要説明では、祈りと聖歌を大切にしていること、児童と教員が一体となって教育活動を行っていること、1年生から6年生まで宿泊体験を行っていることなどが紹介された。最後に質疑応答の時間が設けられ、中国教職員からは主に、「宗教の授業内容について」「学校外での活動における安全対策について」「日常的に行っている授業以外の活動について」「採用条件と教員研修制度について」「家庭に対する研修について」など数多くの質問があがった。



全校児童による歓迎会（星美学園小学校）

## 1-2.グループ・プログラム

### A グループ：東京都多摩市

プログラム第4日の10月22日（水）から第7日の10月25日（土）までの間、Aグループ34名は東京都多摩市を訪問した。同市は1960年代に丘陵を開発した団地が広がり、豊かな緑に囲まれており、都心まで電車で30分程の距離のため、東京のベッドタウンとして知られている。また、全小中学校がユネスコスクールに加盟し、市をあげてESD（持続可能な開発のための教育）を推進している。

#### (1) 多摩市教育長表敬訪問・オリエンテーション

一行は両国からバスで多摩市へ赴いた。昼食後、多摩市役所において多摩市教育長表敬訪問を行った。清水哲也教育長よりあいさつがあり、多摩市の学校では、すべての小中学校がユネスコスクールとして登録されており、「2050年の大人づくり」をスローガンに掲げ、ESDを推進し、環境教育や国際理解教育、防災教育などに取り組んでいる。有意義なプログラムになり、友好関係が深まることを願っている、と述べた。続いて、訪問団を代表し、譚軍（TAN Jun）副グループ長が多摩市を訪問できることへの感謝と訪問中の学びへの期待を述べた。その後、訪問団を代表して譚副グループ長と清水教育長が記念品の交換を行い、多摩市と中国教職員との友好を促進することができた。

次に、多摩市教育委員会の石井正広統括指導主事より、多摩市の概要および多摩市および多摩市の学校教育について説明があった。多摩市の四季、歴史や学校教育、訪問する学校の特徴的なESD活動について、具体的な紹介があった。

その後、一行は多摩市役所および市議会会議場を見学し、市役所を後にした。



清水教育長あいさつ（多摩市教育長表敬訪問）

#### (2) ベネッセコーポレーション

続いて一行は、ベネッセコーポレーションを訪問した。会議室到着後、ベネッセが展開する事業のビデオを視聴した。続いて、ベネッセ教育研究所の職員より日本の教育事情についての説明を受けた。中国人の職員からは中国語による説明があった。質疑応答では、日本の家庭教育についてなど、多くの質問があった。その後、中国事業の担当者より、ベネッセの中国での事業の説明が中国語で行われた。

最後に、一行は最上階にあるスタードームを訪れ、多摩丘陵の眺望を眺め、訪問を終了した。



質疑応答（ベネッセコーポレーション）

#### (3) 東京都立多摩桜の丘学園

プログラム第5日の10月23日（木）午前、一行は東京都立多摩桜の丘学園を訪問した。同校は、小学部、中学部、高等部を併置する肢体不自由、知的障害の児童生

徒のための特別支援学校である。

学校到着後、杉野学校長から歓迎のあいさつがあった。次に訪問団を代表し、成都市特殊教育学校の楊劍梅 (YANG Jianmei) 校長が受入れへの感謝を述べた。記念品贈呈の後、植草久子主幹教諭より学校概要の説明があった。肢体不自由学級、知的障害学級の授業の様子などについて映像を交えて説明があった。

その後、2グループに分かれ校内見学を行った。小学部から高等部までそれぞれの知的障害、肢体不自由の授業を見学した。

校内見学の後は管理職や主幹教諭などと意見交換を行った。教員の採用や待遇、学費、職業教育などさまざまな質問があった。

先生方に見送られ、一行は学校を後にした。



学校概要説明 (多摩桜の丘学園)

#### (4) 多摩市立東愛宕中学校

午後、一行は多摩市立東愛宕中学校を訪問した。同校は1972年に設立されたユネスコスクールで、地域との連携や災害安全教育、国際理解教育を推進している。

学校到着後、千葉正法校長より歓迎のあいさつがあった。続いて、訪問団を代表し、四川省成都市金牛中学校の馮好問 (FENG Haowen) 教諭が受入れへのお礼を述べた。

その後、竹田和彦副校長より学校概要の説明があった。グリーンカーテンの取り組みや復興支援、アートマイルを通じた海外のユネスコスクールとの交流の様子などが紹介された。記念品贈呈では、学校オリジナルの缶バッジが贈呈された。

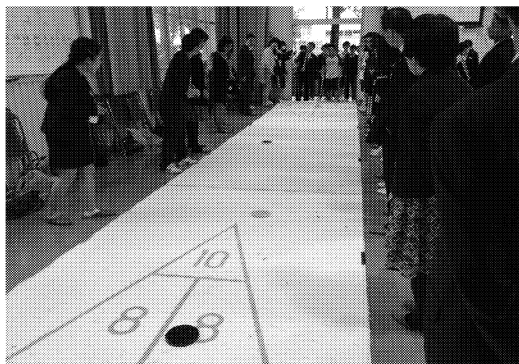
給食の時間では、訪問団は各教室で生徒

と一緒に食べ、交流を楽しんだ。

その後、中国教職員を代表し、湖北省襄陽市第二十中学校の宋海潮 (SONG Haichao) 副校長が、3年生を対象に、中国のスポーツやオリンピックについての説明を行った。その後、体育の授業にてニュースポーツを3年生と合同で行った。ニュースポーツとは、難しいルールや高度な運動能力を必要としない、レクリエーションの一環として楽しめる身体運動のことで、さまざまな年代の人が楽しめる。今回はユニカールと呼ばれる床でのカーリングのようなスポーツを体験した。日本の生徒と中国の教員との合同チームによるトーナメント戦となり、最初はお互い遠慮していたようだったが、一投ごとに仲が深まっていき、勝ったチームはハイタッチをして喜ぶ様子も見られた。

その後、日中の教職員による意見交換会があった。質疑応答では、子どもの体力向上、生徒会、英語力の養成、生徒への指導などさまざまな話題について質問があり、両者が本音で話し合える機会となった。

最後に部活動見学として吹奏楽部の活動を参観し、一行は学校を後にした。



ニュースポーツ体験 (多摩市立東愛宕中学校)

#### (5) 多摩市立豊ヶ丘小学校

プログラム第6日の10月24日(金)午前、一行は多摩市立豊ヶ丘小学校を訪問した。同校は、学校林・地域・食育を3本柱としてESDを推進するユネスコスクールである。敷地内に7100㎡の学校林を有し、東京都オリンピック教育推進校に指定されている。同校へは、主催者を代表し国際連合大学の岩佐敬昭大学院事務局長も同行した。

学校到着後、はじめに校庭で歓迎会があり、児童によるダンスと箏の披露があった。その後図書室にて小林佳世校長による歓迎のあいさつと、湖北省襄陽市第四十三中学校の王俊（WANG Jun）校長のあいさつがあった。

その後、2グループに分かれ、体育や国語などの授業参観を行った。校内見学の後、中国教職員は学校林を訪れた。児童がつくったブランコや林内に生息する希少生物を紹介したマップなどを視察した。休み時間に児童が学校林で遊んでいる様子も見学し、中国教職員は感心していた。

次に教室へ戻り、6年生の総合的な学習の時間「学校林プロジェクト」に参加した。6年生の児童が、プロジェクトで行っている学校林での読み聞かせや自然学習について紙新聞を用いて中国教職員に紹介した。

その後、中国の学校の様子について多くの児童が中国教職員へ質問した。湖北省武漢実験外国語学校の傅彦（FU Yan）学年主任より、中国の学校生活についての発表があった。発表後、2グループに分かれ職員との質疑応答があった。

給食は12グループに分かれ各教室で児童と食べた。

最後に校庭にて、児童から合唱と手作りのバッジのプレゼントがあった。訪問団は児童や教員との別れを名残惜しみつつ、学校を後にした。



児童による見送り（多摩市立豊ヶ丘小学校）

## (6) 永山公民館・パルテノン多摩・旧富澤家

午後、一行は永山公民館およびパルテノン多摩を見学した。永山公民館は、京王永山駅前にある公民館で、市民が利用できる

生涯学習講座や多目的スペースを多く有している。訪問団は公民館の職員から説明を受けた後、館内を見学した。

パルテノン多摩は、多摩センター駅前にある複合文化施設である。訪問団は、職員から説明を受けた後、館内にある歴史ミュージアム、マジックサウンドルームをそれぞれ見学した。

その後、パルテノン多摩からほど近い旧富澤家を訪問した。18世紀後半に建築された連光寺の名主の家を移築したもので、現在は、多摩市の文化財として保護公開されている。一行は職員から説明を受けながら、家屋の内外を見学した。

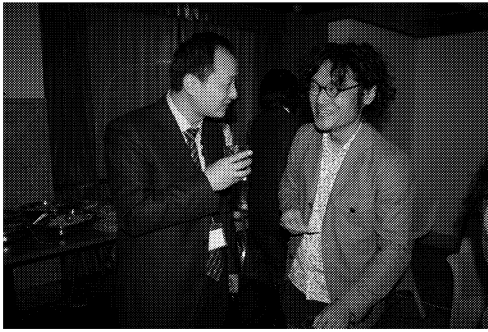


歴史ミュージアム（パルテノン多摩）

## (7) 歓迎交流会

同日夜、パルテノン多摩5階「トレノ・ノッテ」にて歓迎交流会が行われた。

石井統括指導主事の進行のもと、はじめに清水哲也多摩市教育長が、訪問団へ歓迎の言葉を述べた。次に、訪問団を代表し、王副グループ長がお礼のあいさつを述べた。その後、ACCUの佐々木万里子人物交流部長が多摩市教育委員会へ受入れへのお礼を述べ、訪問団には、プログラム後もこのプログラムの成果を活かしてほしいと激励した。多摩市教育委員会の神山直子教育指導課長の乾杯の発声後、和やかな懇談が始まった。各テーブルでは、訪問先の学校教員やホストファミリーとの会話を楽しむ姿が見られ、終始賑やかな2時間であった。最後に、神山課長より締めのお礼のあいさつがあり、訪問団へ手ぬぐいの記念品が手渡された。中国教職員は、他の出席者と再会を誓いながら会場を後にした。



ホストファミリーと交流（多摩市歓迎交流会）

Geng) 氏より中国語で説明を受けた後、自由見学となった。その後お昼を挟み、皇居や浅草など名所を回った。

#### (8) 教育センター（情報共有会）、多摩市立諏訪中学校（合唱コンクール見学）

プログラム第7日の10月25日（土）、一行は教育センターを見学した。教育センターは、主に多摩市立小・中学校に在籍する児童・生徒・その保護者、及び多摩市立小・中学校の教職員を対象に、臨床心理士・教育関係者等が教育相談や教育指導を行っている。はじめに職員より教育センターの役割、活動内容について説明を受けた後、適応教室や相談室等の施設を見学した。

その後、教育センターの研修室にて、訪問団は情報共有会を行った。

情報共有会終了後、訪問団は徒歩で多摩市立諏訪中学校を訪問し、合唱コンクールの様子を参観した。クラスメートで力をあわせて練習した成果を披露する日本の教育の特色ある行事を、訪問団は興味深く見学していた。

#### (9) ホームビジット

昼食後、一行はホームビジットへ参加した。多摩市役所にてホストファミリーとの対面式を終えた後、各受入れ家庭を訪問した。既に前日の歓迎交流会で何名かの参加者はホストファミリーと面識があり、対面当初から再会を喜ぶ参加者もいた。初めて会い緊張していた参加者も、終了後は満足した様子でホテルへ帰着していた。

#### (10) 東京都内視察

プログラム第8日の10月26日（日）午前、多摩市を出発した一行はお台場へ向かった。お台場では日本科学未来館を訪問し、まず同館国際調整室室長の屠耿（TU





## 2. 第2班プログラム

### 2-1. 全体プログラム（東京）

#### (1) 来日、オリエンテーション

10月に引き続き、「中国教職員招へいプログラム」の第2班参加者63名が2014年11月16日（日）に来日した。

同日、滞在先のホテルメトロポリタンエドモント3階「春琴」にて、オリエンテーションが行われた。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部部長の佐々木万里子から参加者に歓迎のあいさつの後、ACCU担当スタッフが紹介された。最後にACCU職員よりプログラム日程説明や滞在ガイダンスなどが行われた。

#### (2) 開会式

プログラム第2日の11月17日（月）午前、国際連合大学5階の「エリザベス・ローズホール」にて開会式が行われた。はじめに中国教職員団を歓迎して、本事業主催者である国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏よりあいさつがあった。本プログラムは、アジア太平洋地域の教員交流を通じて、相互友好・理解の促進のために実施されており、平和な社会の構築に向けて教育面から貢献する意義の深いものである、とプログラムの趣旨を説明した後、限られた期間ではあるが、日本の学校への理解が進み、これを機会に日中の学校間での継続的な交流につながることを期待する、と述べた。続いて文部科学省大臣官房国際課より国際協力企画室長の永井雅規氏、ACCUより足立直樹理事、中華人民共和国駐日本国大使館より二等書記官の陳世華（CHEN Shihua）氏のあいさつがあり、最後に訪問団を代表して内モンゴル自治区処長の何燕（HE Yan）団長が、教育は国家百年の大計という言葉があるが、世界各国は教育をきわめて重視し、教育の発展のために莫大な投資をしており、中国政府も同様に教育を重視していると述べた上で、中国の教育は要の時期にあり、成果をあげている一方で教育格差などのさま

ざまな問題などに直面しており、日本をはじめ世界各国の教育から謙虚な姿勢で学びたい、と述べた。さらに、本プログラムでは日本の初等中等教育への理解を深め、多くのことを学び、日中の教育関係者の友好を深めたいとのあいさつがあった。

#### (3) 講義

開会式に続き、同会場にて、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課の栗山和大専門官（併）企画係長から「日本の初等中等教育」についての講義が行われた。講義内容は以下の通りである。

- I. 日本の基本的な初等中等教育制度
  - ・学校数、在籍者数、本務教員数
  - ・在籍者数、就園率・就学率の経年変化
  - ・義務教育制度の概要
  - ・教育行政制度の概要
  - ・教育委員会制度の概要
  - ・教育基本法の概要
  - ・学校指導要領
  - ・教員養成・免許制度の概要
- II. 日本の現状認識と教育政策の方向性
  - ・日本の現状に対する認識
  - ・これから求められる力
  - ・現状認識を踏まえた教育政策

講義の後に設けられた質疑応答の時間には、「教育委員会による学校の評価方法」「教員免許の更新について」「教員採用について」「課題解決型教育とはなにか」「SGHの選定方法について」「大学入試について」など数多くの質問があがった。

#### (4) 歓迎交流会

開会式、講義に続いて、国際連合大学2階「レセプションホール」において歓迎交流会が開催された。国際連合大学サステナビリティ高等研究所所長の竹本和彦氏、文部科学省大臣官房国際課国際協力企画室室長の永井雅規氏、中華人民共和国駐日

室室長の永井雅規氏、中華人民共和国駐日本国大使館二等書記官の陳滔偉（CHEN Taowei）氏ほか、ACCUからは老川祥一理事が出席した。

竹本氏からは、本プログラムの実施を通じて日中間の教育交流をより実り多いものにしていきたい、とのあいさつがあった。続いて、永井氏より、約一週間という限られた期間ではあるが、日本の教員や子どもと多く接していただき、少しでも日本について理解を深めていただきたい、そして訪問の終わりには素晴らしい思い出や財産を中国に持って返っていただきたいとのあいさつがあった。陳氏は白剛（BAI Gang）公使参事官のあいさつを代読し、帰国後に日本での経験を活かし、勤務校の教育水準を高め、日中両国の教育交流に貢献していただきたい、とのメッセージが伝えられた。

各代表あいさつの後、中国教職員訪問団を代表し、何団長から返礼のあいさつがあった。

記念品交換の場では、国際連合大学の竹本サステイナビリティ高等研究所所長から訪問団団長の何氏へ記念品が贈られ、何団長からも記念品が贈呈された。続いて、今回の訪問団の秘書長である馬力(MA Li)氏へ文部科学省の永井氏から記念品贈呈が行われ、馬氏からも記念品が贈られた。

ACCU 老川理事の乾杯の音頭で、歓談がはじまり、訪問団員たちは和やかに懇談に興じていた。



日本側の来賓と歓談（歓迎交流会）

## (5) 東京都内近郊学校訪問

### —Bグループ—

#### 東京学芸大学附属世田谷小学校

プログラム第3日の11月18日（火）午前、一行は東京学芸大学附属世田谷小学校を訪問した。同校は、東京府小学師範学校の附属学校として明治9（1876）年に創始された国立小学校である。

学校到着後、松浦執校長より歓迎のあいさつがあった。続いて、訪問団を代表し、南寧市人民路東段小学校の雷竺翠（LEI Zhucui）校長が受入れへのお礼を述べた。その後、記念品交換が行われた。

続いて、2グループに分かれ授業参観を行った。訪問団は理科や音楽などの授業を見学した。休憩を兼ねた自由参観では、休み時間の児童の様子を見学し、交流を図る中国教職員も見られた。

次に、同校教員より「学び続ける共同体としての学校の創造」と題した教育研究の取り組みについて発表があった。質疑応答では、研究授業についてなどの質問があった。別れを惜しみながら、一行は学校を後にした。



理科の授業参観  
（東京学芸大学附属世田谷小学校）

## 和光小学校

同日午後、一行は和光小学校を訪問した。同校は、創立 80 周年を迎え、一貫して子どもが主人公である学校を目指し、子どもたちが生き生きと学び、仲間とつながりながら生活できる学校を目指している。

昼食後、歓迎会で児童による民舞が披露された。その後は授業参観と、中国の教員による特別授業が実施された。授業参観では算数、音楽、理科、美術などを見学した。一方、貴州大学の廖燁 (LIAO Ye) 講師が、4 年生へ、貴陽市南明区南明小学校の王玉 (WANG Yu) 副校長が 6 年生へ、「中国ってどんな国?」と題し、映像を交えて説明を行った。発表後、中国の学校の休み時間、長期休暇、給食、学校にお菓子を持っていってもいいかなど、児童から多くの質問があった。その後、校舎および隣接の幼稚園の園舎を見学した。

続いて、教職員との懇談となった。授業見学をした音楽や算数の授業の教材・設備についての質問や、時間割についての質問が多くあった。最後に、貴陽市環西小学校の周雲 (ZHOU Yun) 校長がお礼を述べ、記念品を贈呈し、一行は学校を後にした。



中国教職員による授業 (和光小学校)

## —C グループ—

### 筑波大学附属中学校

11 月 18 日 (火) 午前、C グループは、筑波大学付属中学校を訪問した。明治 21 (1888) 年創立の同校は、先導的教育、教師教育、国際教育に力を入れ、さまざまな取組を行っている。

学校に到着すると小山浩教頭をはじめとする教職員一同から歓迎を受けた。学校概要の説明を受けた後、2 グループに分かれて授業見学を行った。数学、理科、英語、国語、社会、音楽、家庭科などの授業を見学したが、国語の授業では石川丈山の漢詩「富士山」を扱っており、訪問団員が中国語の発音でその漢詩を朗読した。生徒らが朗読に対する感想を訪問団員に伝え、また、訪問団員と一緒に実際に中国語での朗読を試みた。英語の授業では、直説教授法による質の高い授業内容に感嘆の声があがった。授業見学終了後、休憩を挟み、教科担当者との質疑応答時間が設けられた。訪問団からは教員の研修、養成などについての質問があがり、回答として校内研修や年に一度開催される研究協議会、海外での模範授業などの事例が紹介された。また家庭科や体育の授業への関心も高く、家庭科で扱う 4 つの領域、体育で扱う種目および評価方法、運動会などについて詳細な説明を受けた。

質疑応答終了後、小山教頭および訪問団員・郭炳勝 (GUO Bingsheng) 氏のあいさつに続いて記念品贈呈が行われた。最後に記念撮影を行い、見送りを受け一行は学校を後にした。



漢詩「富士山」を朗読する中国教職員  
(筑波大学附属中学校)

## 立教女学院中学校・高等学校

午後は立教女学院中学校・高等学校を訪問した。キリスト教による全人教育を行う私立の中高一貫校である同校は、「知的で品格のある凛とした女性」の育成を目指している。

到着後、和田道雄校長から歓迎の言葉を受け、訪問団を代表して毛東文（MAO Dongwen）氏が感謝の意を表した。山岸悦子教頭から学校説明を受けた後、2グループに分かれて授業見学および施設見学を行い、英語、美術、家庭科などの授業を見学した。その後、3つのグループに分かれ質疑応答が行われた。「生徒が学校施設の清掃を行うのか」という質問に対し、山岸教頭は「掃除も教育の1つであり、自分の使ったところは自分できれいにするというのが日本の教育方針である」と答えた。また、入試の選考基準についての質問が出ると、公立・私立で違いがあることを述べたうえで、同校の入試制度について丁寧な説明がなされた。質疑応答終了後、ふたたび2グループに分かれ部活動見学の時間が設けられた。体育館では運動部が活発に活動する様子を見学した。また、各教室で特別に公演を披露してくれたハンドベルクワイヤー部、器楽部、ダンス部に、訪問団は熱烈な拍手を送った。

最後に感謝の気持ちを込めて何団長から山岸教頭に記念品が贈呈された。別れ際、一行は温かい見送りを受けながら学校を後にした。



盛んに意見を交換する日中両国の教職員  
(立教女学院中学校・高等学校)

## 2-2.グループ・プログラム

### B グループ：熊本県荒尾市

プログラム第4日の11月19日（水）から第7日の11月22日（土）までの間、Bグループ33名は熊本県荒尾市を訪問した。同市は辛亥革命を支援した宮崎滔天の故郷で孫文も2度訪問し、市として日中友好に積極的である。今回は同市教育委員会の協力のもと、小学校2校、中学校1校、特別支援学校1校と文化施設を訪問した。

#### (1) 市長・教育長表敬訪問

プログラム第4日の11月19日（水）午後、広西チワン族自治区教育庁の調査研究員である徐福才（XU Fucui）氏をグループ長とする荒尾市役所にて荒尾市長の前畑淳治氏と荒尾市教育長の丸山秀人氏を表敬した。前畑市長からは、「中国との縁が深い荒尾市に中国教職員の皆様をお迎えできたことは意義深く、本プログラムが将来、日中両国の友好や相互理解に関し多くの成果を生み出すものと確信している」とのあいさつがあった。続いて、丸山教育長からは「学校訪問を通じて教育制度への理解を深めるだけではなく、子供たちに接していただき、教育の相互理解と友好が促進されることを願っている」との言葉が述べられた。訪問団を代表して徐グループ長からは、「初めて来日した団員が多数なので、日本の教育の現状を学び、日中双方の教育・文化交流を進めていきたい」という返礼のあいさつがあり、記念品の交換が行われた。



荒尾市長・教育長と記念撮影（表敬訪問）

#### (2) 宮崎兄弟生家見学

その後、一行は宮崎滔天らが生まれ育った生家を見学した。同じ敷地内には荒尾市宮崎兄弟資料館も併設され、同館所長の安田信彦氏と中国人アシスタントの案内により、宮崎滔天と孫文との交流やエピソードについて説明を受けた。また、見学後は荒尾市役所に戻り、荒尾市が作成した中国語字幕付きの荒尾市紹介VTRを鑑賞した。



安田所長の説明を受ける（宮崎兄弟生家）

#### (3) 歓迎交流会

同日午後6時より、ホテルヴェルデで歓迎交流会が開催された。教育振興課長の大神英子氏が司会を務め、前畑市長、市議会議員長の迎五男氏、丸山教育長、そして訪問団を代表して勾建鳴（GOU Jianming）氏があいさつを行い、訪問団から荒尾市へ記念品が贈呈された。

荒尾市教育委員会の教育委員長の境民子氏による乾杯の音頭で歓談が始まった。交流会には、訪問予定の学校の教職員らが出席し、ボランティア通訳の協力によって日中の教職員間の会話も弾んだ。また、当日は地元の伝統文化を伝承している豊洲会による「炭坑節」や、市職員によるサクソ演奏が披露されるなど、交流会に花を添えた。さらには、荒尾市側出席者と訪問団有志による「北国の春」「時の流れに身をまかせ」の合唱、会場全員で炭坑節を踊り、大盛況のうちに交流会は終了した。



炭坑節を踊る中国教職員（歓迎交流会）

#### (4) 熊本県立荒尾支援学校訪問

プログラム第5日の11月20日（木）午前、一行は熊本県立荒尾支援学校を訪問した。同校は1979年に開設された知的障害の児童生徒の教育を行う特別支援学校で、小学部、中学部、高等部、重複障害学級に現在127名の児童生徒が在籍している。「たくましく・ほがらかに・のびやかに活動できる児童生徒の育成」を目指し、児童生徒の生活年齢や個々の発達、教育的ニーズに応じて文部科学省が定める学習指導要領に則り、教育課程を編成している。

到着後、中山龍也校長を囲んで全員で記念撮影を行った。その後、中山校長より歓迎のあいさつがなされ、訪問団を代表して張丙煥（ZHANG Binghuan）氏がお礼の言葉を述べた。続いて、中山校長から、主に「日本における特別支援教育」「熊本県における特別支援教育」「荒尾支援学校の教育」について説明を受けた。

2グループに分かれての授業参観および施設見学では、小・中・高等部や重複学級のクラスなど一人ひとりのニーズに応じた授業を行っている様子や、設備環境について説明を受け、中国教職員はそれぞれの教室で熱心に質問をしていた。小学部のクラスでは前日の歓迎交流会で覚えた「炭坑節」を児童と一緒に踊り、しばし交流を楽しんだ。

休憩を挟み、質疑応答の時間が設けられた。訪問団からは主に、「特別支援学校の教員の免許について」「建物の設置基準について」「取り扱う教材について」などの質問が出て、日本の特別支援教育についての理解

が深まった。最後に訪問団員一人ひとりに記念写真が贈呈され、訪問団からも学校へ記念品が贈呈された。



中山校長を囲んで記念撮影（荒尾支援学校）

#### (5) 荒尾市立荒尾第三中学校訪問

昼食を挟み、午後は、荒尾市立荒尾第三中学校を訪問した。同校は1947年に開校し、現在は校区変更に伴い生徒数が増加し、348名が在籍している。生活の六箇条「好きです三中」があり、生徒会活動とともに生徒の愛校心の涵養に役立っている。1996年度から職場体験を取り入れるとともに、立ち止まってするあいさつの日常化など、積極的に取り組む生徒の育成を目指している。さらに、無音清掃に力を入れ、生徒の心を磨くことにも力を入れている。

まず、全校生徒による歓迎セレモニーが開かれ、曾我祐智校長から歓迎のあいさつの後、訪問団代表の唐玲（TANG Ling）氏からもお礼のあいさつがあった。続いて、生徒会代表より、「好きです三中」と題して、同校の伝統である「立ち止まってあいさつ」「無音清掃」「ノーチャイム」や、一日の流れ、学校行事や部活動などが紹介された。最後に、全校生徒が校歌を斉唱し終了となった。

続いて2グループに分かれて、基礎教科をはじめ美術、音楽、技術・家庭科などさまざまな授業を参観し、校内の施設を見学した。授業参観後、同校の特徴である「無音清掃」を見学し、自主的に生徒が自分たちの学校を清潔に保とうとする姿に一行は感心していた。

曾我校長より経営計画の説明がなされた

後、意見交換の場が設けられ、「生徒による学校紹介には大変感心した。生徒の自立性をどのように育てているのか。」という中国教職員からの問いに対し、「当たり前のことを当たり前に行えるように指導している。職員が一丸となって取り組んでいる。」との回答に、当日の訪問を通じて一行は納得している様子であった。

最後に学校へ記念品が贈呈され、一行は吹奏楽やバドミントンなどの部活動を見学し、同校を後にした。



曾我校長へ質問をする中国教職員  
(荒尾第三中学校)

## (6) 荒尾市立中央小学校訪問

プログラム第6日の11月21日(金)の午前、荒尾市立中央小学校を訪問した。同校は荒尾市のほぼ中央に位置しており、児童数は576名と市内の小学校の中で最も児童数が多い。今年度からは英語教育の特例校の指定を受け、全学級に配置してある電子黒板を活用し、歌やゲームなどで楽しく活動しながら、週3日の朝15分間全学年における英語のモジュール学習を実施している。

同校に到着すると、永尾則行校長をはじめとする教職員の出迎えを受け、図書館へ案内された。永尾校長からは歓迎の言葉が述べられ、訪問団を代表して杜鵑(DU Juan)氏から受入れに対するお礼が述べられた。続いて田中邦章教務主任から、同校には通常学級のほか、特別支援学級として知的障害児学級と自閉症情緒障害児学級が併設されていることや、英語科や年間行事などを中心に学校概要説明がなされた。それに対

して、中国教職員からは「英語の授業で使用する教科書について」「英語教育特例校として指定を受けるための条件と校区について」「特別支援学級における児童数と教職員数の割合について」などの質問があがった。

その後、3校時には2グループに分かれて、国語、算数、英語などの授業参観を行った。4校時には、全校児童による歓迎会が開かれ、合唱やリコーダー演奏が披露された。訪問団を代表して、張盈(ZHANG Ying)氏が、子供たちへあいさつをし、自身の勤務する学校と児童について紹介をした。また、張氏の教え子が作成した書道の作品が学校へ贈呈された。子供たちからは、中国の食べ物や学校での勉強の内容、人気のあるアニメなどについての質問があがり、子供たちにとっても中国に対する興味・関心を深める機会となった。

給食は19クラスに分かれて児童と共にし、通訳なしではあったが、それぞれのクラスで交流を楽しんでいる様子であった。最後に正門前で記念撮影を行い、次の訪問先に向けて出発した。



児童と給食交流(中央小学校)

## (7) 荒尾市立緑ヶ丘小学校訪問

同日午後は、荒尾市立緑ヶ丘小学校を訪問した。同校の児童数は454名で、「なかよく かしこく たくましく」を校訓とし、「当たり前をやり抜け」のスローガンのもと、「夢や目標に向かって、心豊かにたくましく生きる子供育成」を目指している。学習指導については研究テーマ「子供たちの確かな学力の獲得を目指して」のもと、自力解決→学び合い→考えの再構築という学



習の流れを「緑ヶ丘プロセス」として統一している。また、地域連携やPTA活動が盛んである。例を挙げると、保護者や地域の方々が先生となって「うきうきわくわくお仕事体験」をPTAが実施し、平成24年キャリア教育優良団体として文部科学大臣賞を受賞した。

はじめに、小島一寿校長より歓迎のあいさつがあり、お返しとして訪問団代表の呉少瓊（WU Shaoqiong）氏から感謝の言葉が述べられ、学校へ記念品が贈呈された。続いて2グループに分かれて、5校時には低学年と特別支援学級の授業参観と校内見学を行い、授業に対してだけではなく、掲示物などについても熱心に質問する様子が見られた。6校時には6年生の書道の授業に参加し、実際に筆を執って児童たちと一緒に楷書したり、4年生と5年生の音楽の授業では日本の教科書にも掲載されている中国の歌「茉莉花」を紹介するなど、児童たちの興味関心を惹いていた。

その後、上原泰教頭より学校概要説明がなされ、子供たちの学校生活の様子が紹介された。最後に質疑応答の時間が設けられ、中国教職員からは、「クラブ活動について」「校外学習および安全対策について」「教員研修制度について」などの質問や、「日本では集団精神を養いながら個性を伸ばす教育が実施されている」「日本先生方は責任感を持って取り組んでいる」などの今回の訪日を振り返っての感想が述べられた。



中国の歌を児童に紹介する中国教職員  
（緑ヶ丘小学校）

## (8) 万田抗見学

プログラム第7日の11月22日（土）の午前、一行は日本最大規模の炭鉱施設である万田抗を訪問した。同施設は2000年に炭鉱施設としては唯一国の史跡に指定され、2009年には「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成遺産として、ユネスコ世界文化遺産の暫定リスト入りをしている。ガイドの案内により、その成り立ちや各工程の作業室などについて説明を受け、炭鉱と共に発展した荒尾市の歴史的背景を理解することができた。



ガイドの説明に耳を傾ける中国教職員（万田抗）

## (9) 松永日本刀剣鍛錬所見学

昼食を挟み、午後は松永日本刀鍛錬所を訪問した。工房を見学し、刀匠の松永源六郎氏による日本刀の製造方法と特色についての説明の後は、実際に刃先を打つ体験をした。また、居合抜きの実演の見学もし、男性の訪問団員のうち数名は日本刀の構え方も教わった。



日本刀の構え方を教わる（松永日本刀剣鍛錬所）

## (10) 情報共有会・ホームビジット

一行は荒尾市役所へ移動し、会議室で情報共有会を行い、翌日の報告会のための発表資料の準備をした。

情報共有会が終了する頃には、ホームビジット受入れ家庭とボランティア通訳が別の会議室に集合していた。対面式が行われ、受入れ家庭の家族と面会した後、それぞれの家庭に出発した。短い時間ではあったが、各家庭で食事をごちそうになったり、家族と一緒に買い物に出かけるなど温かいもてなしを受け、日本の文化に触れることができた。受入れ家庭の多くが訪問校の教職員や教育委員会の職員で構成されており、教員同士の会話は共通点も多く、盛り上がった様子であった。

## 2-3.グループ・プログラム

### Cグループ：長崎県長崎市

プログラム第4日の11月19日（水）から第7日の11月22日（土）までの間、Cグループ30名は長崎県長崎市を訪問した。同市は原爆被災地として恒久平和を希求し、平和教育、国際理解教育を推進している。また、16世紀のポルトガル船来航以来、異文化との接点として龍舟競漕など中国の文化も根付いている。今回は同市教育委員会の協力のもと、小学校1校、中学校2校、文化施設を訪問したほか、特別支援学級による体育交歓会を見学した。

### (1) 教育長表敬訪問・オリエンテーション

11月19日（水）午後、内モンゴル自治区教育庁次長である何燕（HE Yan）氏を団長とするCグループは、長崎市役所に到着し、馬場豊子教育長を表敬訪問した。はじめに、馬場教育長は、長崎市は中国と関わりの深い町であることに触れ、今後都市と都市との友好関係を築いていきたい、と述べ訪問団を歓迎した。その後、訪問団を代表して、フフホト市教育局の柏俊（BAI Jun）副局長が、長崎で過ごす4日間、長崎市民の方々との出会いを楽しみにしている、と述べた。長崎市側の関係者が紹介された後、質疑応答が行われ、教育長の任命制度、中国語のカリキュラムの有無などについての質問があがった。最後に記念品交換、記念写真撮影が行われ、表敬訪問を終えた。

その後、一行は別室に移動し、長崎市のオリエンテーションがあった。酒井友文学校教育部長があいさつした後、平山サナエ学校教育課長が長崎市の概要を説明した。1600年代、「出島」にて中国とも通商を行っており、「唐人屋敷」と呼ばれる中国人居住地区が設置されたこと、中国福州市や中山市と友好都市提携を結んでいることに加え、長崎市の地理、祭り、食文化についても説明があり、訪問団は長崎市について理解を深めることができた。続いて、同市の教育概要と教育施策についての説明があり、学校・家庭・地域がそれぞれの教育効果を発揮し、知・徳・体のバランスのとれた生

きる力を育むことを大きな目標としていることなどが紹介された。最後に行われた質疑応答では、夏休み期間中の図書室の活用や、教師の指導の基礎基本をまとめた同市の「あじさいスタンダード」について質問があがった。



馬場教育長表敬訪問（長崎市役所）

## (2) 歓迎交流会

同日 18 時 30 分より、長崎市内のホテルにて、同市主催の歓迎交流会が催された。はじめに、ボランティア通訳との顔合わせがロビーにて行われ、中国教職員は彼らに先導され、長崎市役所二胡愛好家による二胡の演奏に迎えられながら入場した。はじめに、馬場教育長のあいさつがあり、国は違うが、子どもを立派に育てたいという共通の想いのもと、実のある交流をしましょう、と述べた。次に、中国教職員より何団長が、盛大な歓迎に感動している、国際開放型都市である長崎市を訪問出来て嬉しい、と感謝の気持ちを述べた。続いて、酒井学校教育部長の発声により、乾杯が行われ、歓談が始まった。歓談中は、終始和やかな雰囲気が進められ、途中、訪問団を代表して貴陽市新世界国際学校高等部の姜再平（JIANG Zaiping）氏が、長崎市の印象を述べたり、貴陽市第二実験中学副主任の蔡瑞豊（CAI Ruifeng）氏が、苗族の歌を披露したりする場面もあった。最後に出席者全員が手を取り合って大きな円をつくり「北国の春」を歌い、大盛り上がりのうちに幕を閉じた。



手を取り合い、「北国の春」を歌う様子（歓迎交流会）

## (3) 特別支援学級による体育交歓会見学

プログラム第 5 日の 11 月 20 日（木）午前、一行は長崎市の特別支援学級が合同で行う、体育交歓会を見学した。会場に向かうバスの中で、長崎市教育研究所の柴田心指導主事より、長崎市の特別支援教育の概要説明が行われた。体育館到着後、入場行進や開会式、がんばらんば体操、100 メートル走を見学した。見学終了後、バスに戻り、柴田指導主事による質疑応答の時間が設けられた。1 位の生徒以外にもゴールテープを切らせる理由や、保護者との連携について質問があがり、同市の特別支援教育について理解を深めた。



長崎市教育研究所の柴田指導主事

## (4) 長崎市立朝日小学校訪問

同日午後、一行は長崎市立朝日小学校を訪問した。到着後、訪問団は各自 10 分程授業を見学し、次に児童との給食交流が行われた。訪問団は数名ずつ各教室に入り、身

振り手振りを交え、児童と交流をした。その後、図書室にて元田美智子校長のあいさつと学校概要説明があり、教職員が幸せであることを意識し学校経営をしていること、「国際人育成の朝日小」が特色であることを説明し、続いて同校の教員を紹介した。次に、訪問団を代表して、来賓実験学校の韋鴻敏 (WEI Hongmin) 校長が訪問のお礼を述べ、記念品を交換した。その後、体育館で全体交流会が催された。はじめに、児童から歓迎のあいさつがあり、訪問団からは、貴陽市清華中学の江莉 (JIANG Li) 副主任が、日本や長崎市の印象にふれながらあいさつをした。続いて、児童による歌や踊りが披露され、長縄、縄跳び、けん玉、じゃんけんなどを通して、児童と交流した。最後に、記念撮影をし、一行は同校を後にした。



児童との交流 (長崎市立朝日小学校)

### (5) 長崎市立片淵中学校訪問

プログラム第6日の11月21日(金)午前、訪問団は長崎市立片淵中学校を訪問した。同校は、日本の古典的な城をイメージしてデザインされており、遠くからでも確認できる特徴的な外観をしている。一行が到着すると、羽淵信之校長があいさつし、教育目標が誠実で自立した生徒の育成であること、また、目指す生徒像として、意欲的に学ぶ生徒、決まりを守り思いやりのある生徒、たくましい生徒、社会に貢献し奉仕する生徒の4点をあげた。次に、訪問団を代表しフフホト市第六中学の王洪志 (WANG Hongzhi) 校長が、歓迎に感謝する、皆さまも是非中国にお越しくください、

とあいさつし、記念品を交換した。次に行われた授業参観では、2グループに分かれ、社会、理科、音楽などの授業を見学し、同校の生徒が普段通り学ぶ姿を見学した。休憩を挟み行われた施設見学では、PTA室、ソーラーシステム、ワークスペース、天守閣など、同校ならではの施設を見学した。その後、福浦豊治教頭より学校概要が説明され、海外との交流、生徒会活動、PTAとの連携について具体的な取り組みを聞くことができた。続いて、質疑応答の時間が設けられ、部活動、教員の異動や等級などについて質問があった。最後に、中国教職員は各教室に数名ずつ入り、同校の生徒と給食を通して交流した。



生徒との給食交流 (長崎市立片淵中学校)

### (6) 長崎市立淵中学校訪問

同日午後、一行は長崎市立淵中学校を訪問した。小雨の降る中バスが到着し、人数分の傘をもった生徒が、走って訪問団を迎えに来る姿を目にした時、中国教職員の誰もが感動していた。校門に到着すると、ブラズバンドの演奏や拍手に迎えられながら、控室に入った。まず、松本健吾校長のあいさつがあり、同校の歴史、生徒数、特徴が紹介された。次に、南寧市第十七中学の張焰 (ZANG Yan) 校長が、今回の交流を通して、両国の教育方法や経験を共有し、さらに発展させていきたい、と述べ、記念品を贈呈した。続いて、ワークテラスにて餅つき交流が行われた。餅つきは同校にて、地域連携や伝統行事の継承のために、毎年行われている行事である。初めて餅つきをした教員も多く、元気な掛け声のもと、終始

和やかな雰囲気に進んだ。餅は訪問団にもふるまわれ、日本文化の一つを同校で経験することができた。その後、質疑応答時間が設けられ、道徳教育、役職別の教員の役割、人事異動についての質問があがった。最後に、記念写真を撮り、一行は同校を後にした。



餅つきの様子（長崎市立淵中学校）

#### (7) 長崎原爆資料館・追悼平和祈念館見学

プログラム第7日の11月22日（土）午前、一行は長崎原爆資料館と国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館を見学した。各平和施設では、専門職員やボランティアガイドによって原爆の被害と人や環境への影響、そして恒久平和について、中国語で詳しく説明がなされた。



平和施設訪問（長崎原爆資料館）

#### (8) 情報共有会・ホームビジット

同日午後、一行は長崎市民会館に向かった。会館では、翌日に福岡で行われる報告会に向けて、約1時間情報共有会が行われ、今回の来日の成果について話し合い、発表資料などを準備した。共有会終了後、別室にてホストファミリーとの対面式が行われた。中国教員とホストファミリーの対面後、互いに自己紹介をし、緊張をほぐした中国教職員は、各々の家庭を訪問し、夕食を挟んで4時間ほど日本の家庭で過ごした。

## 2-4.全体プログラム（福岡）

### (1) 報告会

プログラム第8日の11月23日（日）、福岡市内にある八百治博多ホテルの会議室にて報告会が行われた。式には、中国教職員63名のほか、国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏、Bグループが訪問した荒尾市の教職員などが日本側来賓として出席した。

報告会では、各グループ代表より20分ずつプログラムの感想、成果などについての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

#### - Bグループ -

熊本県荒尾市を訪問したBグループを代表して、桂林市彙通小学校長の沈克虹（SHEN Kehong）氏が報告を行った。

今回のプログラムでBグループ33名は6校を訪問し、学校現場でどのように教育実践が行われているかを実際に見ることができた。中国と日本は、友好交流を長く続け良い影響を与え合ってきている隣国である。日本の方々と交流し、理解を深めることは重要であり、どのような子供を育てるか、共に発展していかなければならないと述べた。

特に今回の訪日で、参考になったのは以下の3点である。

1. 伝統文化教育は郷土を愛する心をはぐくみ、責任感を養う。伝統文化教育は小学生から始めるべきである。日本でも伝統文化教育が行われていた。例として、和光小学校では各学年が日本のさまざまな地方の踊りを学んでいた。熊本県立荒尾支援学校では小学生と炭坑節を踊った。荒尾市立中央小学校では、花笠音頭を全校児童で踊るという説明を受けた。中国は56の民族で構成されており、例えば、内モンゴルはモンゴル相撲、馬頭琴、貴州省はトン族の歌や踊り、チワン族は3月3日を祝う踊りなどがある。このような習慣は国を動かすうえでも大きな力となっているので、他の地域でも普及させるべきであると感じた。

2. 学生のしつけに関する教育について、良い習慣は成長のために不可欠である。各学校で大きな成果を収めている。学校では交通安全教育が行われ、時間、規則を養っており、学校の廊下には絵や写真が掲示され、しつけを細かく教えている。生徒同士、お互いに発表し学んでいる。荒尾市立第三中学校では、無音清掃というのを見学し、音を立てずに隅々まで掃除している姿に驚いた。「桃李もの言わざれども下自ら蹊を成す」ということわざがあるが、日本の資質の高さを感じると共に、基本的なことを身に付けさせる日本の教育に感銘を受けた。

3. 教育の均衡と公平性について、日本では公立私立地方に関わらず、どの学校でも統一されており、全てが生徒の成長のために考えられている。東京でも地方においても、教育の質に差は見られなかった。学校の外見は素朴でも、教材や設備など中身は充実している。世田谷小学校での教員同士の研究会では、見る、聞く、共有するという方法で授業が行われており、参考になった。

最後に沈氏は、中国での初等中等教育は、着実にレベルを上げてきており、均衡のとれた教育にも力を入れているが、日本にはまだまだ追いついていないと述べ、中国は生徒数が多いができるだけ一人ひとりに目を向け、総合的に実力を発揮できるよう、考えていきたいと締めくくった。

#### - Cグループ -

Cグループを代表し、内モンゴル自治区教育科学研究所所長の劉彦澤（LIU Yanze）氏より報告があった。内容は以下の通りである。

Cグループ30名は今回長崎市を訪問した。東京では文部科学省による講義を受け、長崎市でも教育の説明を受けた。中国大使館大使館教育部の訪問する機会もあった。プログラム期間中には4つの中学校、1つの小学校を訪問し、特別支援学級の体育交換

会の見学も行った。短い期間ではあったが、良い訪問ができ、子供たちと餅つきをしたことは忘れ難い経験であった。

以下 3 点が、日本における初等中等教育の印象である。

1. 小学校であれ中学校であれ、公立私立であれ、学校の環境はよく、秩序が整っていた。それぞれの学校ごとに明確で、実効性のある教育目標が掲げられていた。団員全員が感じたのは、どの学校も教育目標がはっきりとしており、実用性のあるものであるということである。特に学校には年度目標があり、児童生徒には月、日の目標があった。学校の管理について、先生方、児童生徒はお互いに責任を持つという文化も目の当たりにした。そしてまた、先生方も仕事熱心で楽しんでいた。教壇に立つことに荣誉、責任を感じていることが分かった。学校家庭地域が三位一体となり、連携していることも分かった。学校の関連施設も地域に開放され、学校としても地域の活動に積極的で、PTA の役割が大きいと感じた。教職員も公務員ということで、質の高い教育のためには効果的である。校長と教員は 4 年から 6 年サイクルでの人事異動により、バランスの良い人員配置であると思った。

2. 子供たちを中心に据え、給食や清掃などを通じて、子供たちの自主性自律性、自分でするという姿勢を養い、習慣をつけるという教育も重視していた。また、部活動や課外活動において、チームワークの精神の育成にも力を入れている。子供たちのプライバシーの保護にも重視している。総合的な時間の活用が、子供たちの資質を高めるのに役立っていた。特に、体育活動において、スピード、バランス感覚の育成に力を入れ、小学校から中学校まで近視や肥満の子が少ないと感じた。

3. 学校の教育目標の制定について、長期的なものも大切であるが、現実的なものが必要であると思う。生きる力、健康な体をつくるということが出発点ではないだろうか。また、日本ではマルチメディアよりも、伝統的なチョークなどが使用されており、近代的なものは必ずしも良くないと考えら

れていた。

最後に劉氏は、日本の文化の特徴は、「道」であり、内在的なものや実用的なものを重視し、一方で中国の文化の特徴は「術」で目に見えるものを重視すると述べ、中国では伝統的なものや礼儀というものの教育が薄れつつあるが、今回のプログラムで学んだことを中国での教育現場に生かしたいと結んだ。



プログラムの成果を報告する中国教職員（報告会）

## (2) 閉会式

報告会に続き同じ会場にて、閉会式が行われた。

最初に、国際連合大学大学院事務局長の岩佐敬昭氏よりあいさつがあった。報告会での各グループの発表に対する感想と共に、今後も日中両国間の交流を促進して欲しいとの激励の言葉があった。続いて、ACCU 人物交流部部長の佐々木万里子氏があいさつをし、今回の体験、知見を帰国後皆様の教育現場で生かし、ご家族や地域の方々とも共有していただきたいと述べた。最後に団長の何燕（HE Yan）氏があいさつをした。プログラムの期間中に学んだこととして、日本の伝統文化教育、生徒の規律正しさ、教育の公平さを挙げ、それぞれについて所感を述べ、最後に「日本の教育をすべて理解するには 9 日間では足りないが、日中共に、初等中等教育に従事する者の目標は同じであることがわかった。児童生徒の能力を高め、才能を開花させ、児童生徒が成長していけるように、日中両国が交流を深め、協力を強化し、理想に向けて共に

努力していきたい」と締めくくった。閉会のあいさつの後、日本側から記念品の贈呈が行われ、閉会式は幕を閉じた。



岩佐事務局長（左）から何団長（右）へ記念品が贈られた

### (3) 九州国立博物館・太宰府訪問

プログラム最終日の11月24日(月)朝、訪問団一行は福岡のホテルを出発し、まず九州国立博物館へ向かった。9時半頃には到着し、館内では自由見学となった。その後徒歩で移動し、太宰府天満宮を散策した。昼食を取ってから福岡空港へ向かい、帰国の途に就いた。





## 第Ⅱ章

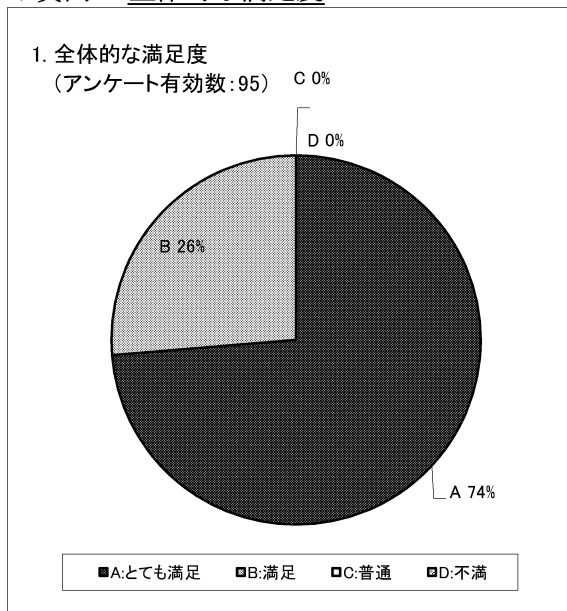
# コメントと提案

1. 中国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 受入れ学校



# 1. 中国教職員

## ◆質問 1. 全体的な満足度



【主な意見】 \*原文は中国語

### A-20 譚軍 副団長 (とても満足)

非常に満足している。行き届いた手配、きめ細かい対応、真面目で責任感がある。

### B-1 徐福才 副団長 (満足)

内容が豊富で、きめ細かくて周到に準備された。

### A-3 童蘇陽 (とても満足)

プログラムの作成が合理的で、よくまとまっていた。訪問する学校もいろいろなタイプがあり、かつ政府(国と地方)の取り組みを合わせて紹介してくれたのがよかった。

### A-10 童培紅

日本人の素養の高さを実感した。教育交流を通じてその理由を探りたい。

### A-23 馮好間

日程が充実しており、いろいろな種類の学校を見学することができた。対応がきめ細かく、交通、宿泊の手配も行き届いていた。

### B-3 田永健 (とても満足)

日本側の熱心な対応と、充実した日程で、大きな収穫を得られた。

### B-6 張丙煥 (とても満足)

熱心で、手配が行き届いている。小中高、特別支援学校などいろいろな学校を見学することにより、日本の実際の教育状況がある程度分かるようになった。

### B-19 周毅 (とても満足)

①プログラムの内容が豊富で、たくさんの学校を訪問できた。特に私立の学校を訪問できたことは貴重な体験であった。

②日本の基礎教育と社会発展の状況について理解が深まった。

### B-21 勾建鳴 (満足)

学校訪問の時間は十分あったので、日本の小中高の状況について知ることができたが、日常生活を視察する機会は比較的少なかった。

### B-33 廖焯 (とても満足)

①受入れが周到で、無駄がない。

②訪問スケジュールが合理的である。

### C-15 楊曄 (とても満足)

スケジュールがきめ細かく、スタッフは真面目で、親切に対応してくれた。各学校は念入りに交流活動を準備してくださり、さまざまなことに応じてくれた。日本の人々はとても友好的であると感じた。

### C-24 蔡瑞豊 (とても満足)

スケジュールがコンパクトにまとまっていて、全面的で、すみずみまで気配りがなされていた。日本の基礎教育の特色を十分に紹介してくれた。大きな収穫を得た。(多くは友情によるもの)

### A-27 王安建 (とても満足)

スケジュールが合理的で、対応が親切であった。特に家庭訪問が一番良かった。交流を深め、友情を深めることができ、非常に有意義だと感じた。

## ◆質問2.参加目的は何か

【主な意見】\*原文は中国語

### A-1 祁品偉 団長

日本の基礎教育の現状、改革および発展の状況について理解を深める。

### C-1 何燕 団長

日本の基礎教育のことについて知りたい。日本の基礎教育の目標と建学理念、先進的な管理運営の経験を参考にしたい。

### A-20 譚軍 副団長

日本の小中学校の教育の現状について知するため。

### B-1 徐福才 副団長

日本の学校を訪問し、日本の小中高の教育状況と参考になる経験や方法を学びたい。

### A-3 童蘇陽

日本の基礎教育の状況を知りたい。日本、公立、私立小中高の現状を知ることにより今後の研究の参考にしたい。

### A-10 童培紅

教育の内容と方法に関する交流をすることで、教育の発展を促進させる。

### A-23 馮好問

インターネットやメディアである程度知っていたが、日本の教育と国民の質を実際に見てみたいと思った。

### B-3 田永健

日本の基礎教育の現状、特に教育の情報化と応用の仕方に関する良い経験を学びたい。また、日本の教育関係者に中国の基礎教育、特に教育情報化の推進状況を紹介し、お互いのことを理解し、友好を深めたい。

### B-6 張丙換

日本の学校と交流し、お互いの良いところを学び合うこと。

### B-19 周毅

日本の基礎教育の現状を把握し、先進的な

理念と管理方法を学びたい。また両国の教師の交流を増やし、日中の友好関係を促進させたい。

### B-21 勾建鳴

日本の基礎教育の現状を把握し、日本の良い所など、わが市の教育改革を推進する上で参考になる経験を取り入れていきたい。また教育交流を架け橋として、日中両国の人々の交流を促進し、正しい情報を伝え、日中両国の共存共栄、協力発展を図りたい。

### C-3 劉彦澤

日本の基礎教育のことについて知りたい。教師と交流し、学生の総合的な素養の育成と、正しい習慣づくりのための教育法を知りたい。

### C-15 楊曄

日本の基礎教育に触れ、日本の民俗文化を体験したい。

### C-24 蔡瑞豊

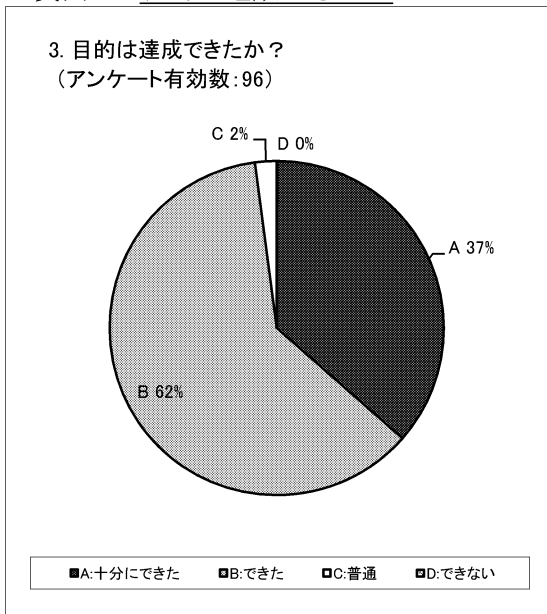
日本の基礎教育の特徴を知りたい。自分が実施している教育法と比較し、良い方を選択したい。

### C-20 張焰

異なる教育文化に触れ、先進的な方法を取り入れたい。自分の仕事の反省点について振り返り、仕事のやり方などを改善していきたい。学校のソフトパワーを増進し、学校運営のレベルを高めていきたい。訪問中に見聞きしたことなどをまとめたい。

最も重要な点は、日中の基礎教育交流を促進させ、両国の教職員の友好関係を結ぶことだと思う。

### ◆質問3. 目的は達成できたか



【主な意見】\*原文は中国語

#### A-1 祁品偉 団長 (できた)

手配が行き届いていた。活動の形式が多様で、内容が豊富。情報も充実していた。

#### A-20 譚軍 副団長 (できた)

さまざまな学校を視察し、多くのことを学んだ。ただ残念なのは、教育委員会（行政部門）との交流が比較的少なかった。

#### B-1 徐福才 副団長 (十分にできた)

日本の小中高の教育制度、教育理念と目的及び教育改革の措置が分かるようになった。訪問することで、新たな発見につながった。日本の教育から学ぶべきところがたくさんあると思う。

#### A-3 童蘇陽 (十分にできた)

基本的に想定した目的を達成できたと思う。

#### A-10 童培紅 (できた)

見学により目的を達成できたが、帰国し我が校で実際に実践できて初めて十分に達成できたと言える。

#### A-23 馮好問 (十分にできた)

良好な教育によって、国民の質を高めるこ

とができると思う。

#### B-3 田永健 (できた)

日本の基礎教育の現状（6校への訪問、報告会や活動参加など）および日本の教育の情報化の現状についてある程度理解することができた。また、日本の教育関係者と交流を深め、目的を達成できたと思う。

#### B-6 張丙換 (できた)

特別支援学校が医療スタッフを配置することにより、重度障害児童が教育を受ける機会を提供している。

#### B-19 周毅 (できた)

多くの学校を訪問できたが、日本の教職員との交流の時間が比較的短かった。

#### B-21 勾建鳴 (できた)

日本の教育理念、学生の生きる力、生活力、チームワークを育成する方法とプロセスについて直接学ぶことができた。また、日本人の平和への思いを感じ取り、中国の平和的発展の考えを正しく伝えた。

#### B-33 廖焯 (できた)

目的を達成できた。ただし、もう1校中学校又は高校を訪問できたら、基礎教育の状況をよりよく知ることができたと思う。

#### C-15 楊擘 (できた)

今回は日本の民俗文化、例えば、相撲や歌舞伎などを体験することができなかった。ただし、日本の基礎教育に関しては、比較的全面的に知ることができた。

#### C-24 蔡瑞豊 (十分にできた)

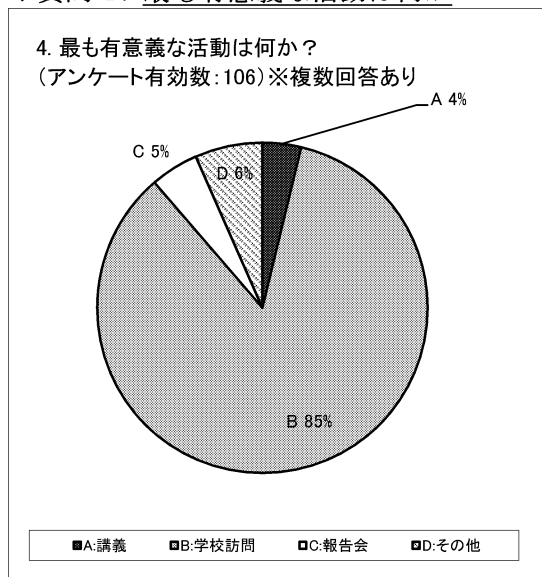
日本の教育の長所と短所を知ることができた。自分のやり方、わが校の状況と比較して、具体的で、はっきりとした改善案を導き出すことができた。またこれまでの教育過程でまとめてきた理念を固めることができた。

#### B-30 王永涛 (できた)

日本の先生から、第一に、彼らの献身的な姿勢、第二に、彼らの指導方法について学ぶことができた。例えば、壁面掲示や児

童生徒の作業体験など。

#### ◆質問4. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】\*原文は中国語

#### B-1 徐福才 副団長 (学校訪問)

学校を視察訪問し、校長先生、教師、生徒と交流することができた。学校教育の方法、管理措置および教育の効果について知り、授業の進め方や学校生活を実際に体験できた。

#### A-3 童蘇陽 (学校訪問)

本プログラムの重要な内容である学校訪問を通じて、日本の学校の現状を知ることができた。日本の基礎教育に対する理解を深めることができた。

#### A-10 童培紅 (学校訪問)

自分の目で確かめることができ、深く印象に残った。

#### A-23 馮好問 (その他)

日本の一般家庭の生活を体験することができた。交流を通じて社会と教育に対する日本人の見方を知ることができた。

#### B-3 田永健 (学校訪問・その他)

荒尾市で教師の家庭を訪問し、教師の家庭生活に触れるなかで、お互いの絆が深ま

った。半日の学校訪問、交流を通じて、教育や管理など、日本の学校教育を全面的に知る機会を得た。荒尾市での日本の教師の家庭訪問では、教師と家族のおもてなしを受け、3時間の楽しい時間をともに過ごすことができた。

#### B-6 張丙煥 (学校訪問)

学校訪問で、間近で生徒と交流できたことが一番印象に残った。日本の学校は児童生徒の自立する力の育成に特化している。

#### B-19 周毅 (学校訪問)

日本の教育現状を実感し、日本の学校の運営状況、施設および保護者からの支援と関与のを知ることができた。また、生徒との交流の機会があって、生徒が勉強・生活する様子がある程度知ることができた。

#### B-21 勾建鳴 (学校訪問)

日本の基礎教育の現状を直接知ることができた。

#### B-33 廖焯 (学校訪問)

学校訪問を通して日本の教育の現状を深く知ることができる。

#### C-3 劉彦澤 (学校訪問)

訪問により理解を深めることができる。

#### C-15 楊曄 (学校訪問)

学校訪問と家庭訪問をすることで、日本人と直に触れ合うことができる。日本の基礎教育の良いところを体験し、日本人が親切で友好的であると感じた。

#### C-24 蔡瑞豊 (学校訪問)

日本の教育の特色を実感した。大きなことを成し遂げるには、小さなことをコツコツとやらなければならない。教育は細かいところに着目しなければならない。教育過程での経験を通じて、見たり、聞いたり、心で感じながら、考えることが重要である。

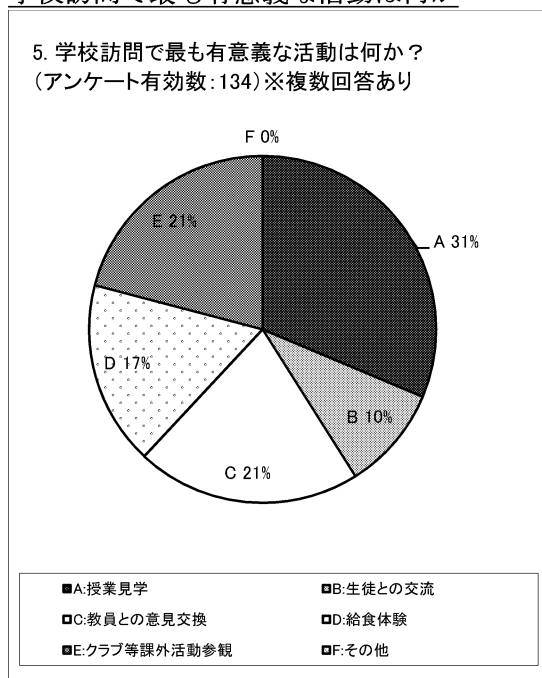
#### C-29 李林 (学校訪問)

朝日小学校での見学が印象的だった。校長先生が教育目標について語られたとき、一人ひとりの教職員をいたわる気持ちが伝

わった。教育事業に全力で取り組むには、調和が取れた友愛的な環境が必要だと思う。

を取り入れることはとても良い方法だと思う。

◆質問 5.  
学校訪問で最も有意義な活動は何か



【主な意見】 \*原文は中国語

A-3 童蘇陽 (授業見学)

百聞は一見に如かず。実際に見学することにより、日本の小中高の現状をある程度理解できた。

A-10 童培紅 (教員との意見交換)

意見交換は深いレベルの交流を促進し、教育理念の強調や新たなアイデアを得ることにつながると思う。

A-23 馮好問 (課外活動)

日本の教師と児童生徒の授業への心構え、また中国と異なる授業のやり方を知ることができた。児童生徒の活動の種類や展開の方法を学んだ。

B-3 田永健 (授業見学)

学校訪問で日本の小学校の授業の全過程を体験した。現場の教育について学ぶために有効であった。民族舞踊のパフォーマンスが特徴的で、学校教育に民族文化の内容

B-6 張丙煥 (授業見学)

教室に入って、生徒と触れ合うことで初めて日本の教育を実感できる。

B-19 周毅 (教員との意見交換)

教育において共通している問題点と向き合い、教育の考え方ややり方を改善することができる。

B-21 勾建鳴 (教員との意見交換)

日本の教育が良い成果を得られる核心となる競争力、即ち、資質の高い教師たちと交流することができた。

B-33 廖焯 (教員との意見交換)

教職員間の交流は、限られた時間内で最大限に日本の教育の現状を知ることができる。学校の施設見学によるハード面への理解に加え、ソフト面についても直接学ぶことができ、我々の不十分なところや改善すべきところを考えさせられた。

C-15 楊擘 (給食体験)

日本の学校で実施されている「食育」は、児童生徒に配膳・片付け、食べ物を無駄にしないこと、働くことの重要性、感謝する心を身につけさせている。

C-24 蔡瑞豊 (授業見学・給食体験・クラブ活動)

1項目だけ選ぶことができず、この3項目を選んだ。残りの2項目も意義があると思うが、残念ながら言葉の問題があるため、深く交流することができなかった。

A-9 鄭璇 (給食体験・団員たちの質問)

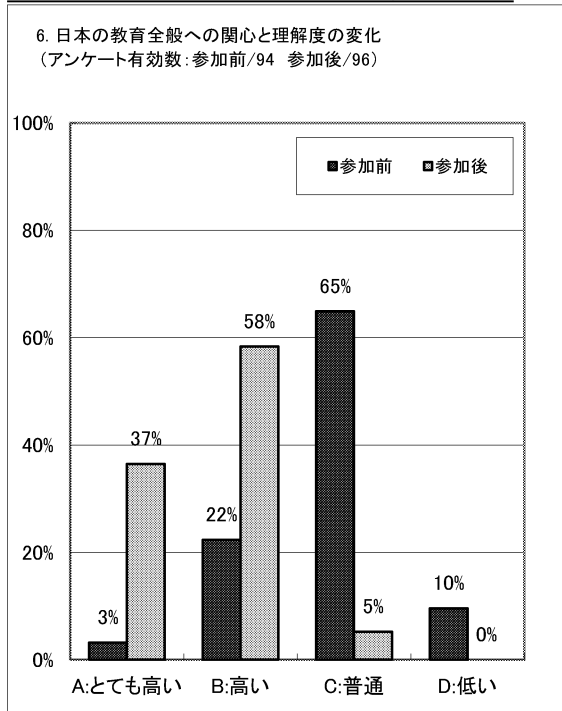
児童生徒たちとの給食体験を通して、子どもたちが勤勉で、食べ物を大切にし、自ら配膳し、片付けを行うなど非常に良い生活習慣を持っていると感じた。これらのことは彼らの素養を高める効果があると思う。団員たちは積極的に質問を行った。現場での見学において、疑問に思うところについて適宜思考を働かせることは、新しい発想を生み出すと同時に、日本の教育への理解



力を高めることに役立つ。

#### ◆質問 6.

#### 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】 \*原文は中国語

#### B-1 徐福才 副団長

(低い→高い)

プログラム参加前は日本の教育に関し、ほとんど知識を持っていなかった。参加後、学校訪問、教師と生徒との交流を通じて、日本の小中高の教育のことを少し理解できるようになった。日本の教育理念と目的、実施効果に対しても認識が深まった。

#### A-3 童蘇陽

(高い→高い)

日中韓 3ヶ国の基礎教育の状況を比較研究する予定である。

#### A-10 童培紅

(低い→高い)

日本の教育についてはインターネットで見聞きした程度であったが、今回の訪問で日本の教育目標および方法を知ることができた。今後、引き続き日本の教育に着目したい。

#### A-23 馮好問

(普通→とても高い)

両国の教育は類似点が多く、文化的なルーツが同じで、直面する問題も共通している。例えば、文化的な衝突、児童生徒が直面する勉強に対するプレッシャーなど。訪日前は、欧米の教育に関心を持っていたが、これからはもっと日本の教育のことについて知りたい。

#### B-3 田永健

(普通→とても高い)

訪問交流を通じて、日本の小中高の教育の特色を知り、参考になることがたくさんあった。例えば、教師と生徒の関係、スポーツ活動、伝統的な民族文化の教育、安全教育などが、深く印象に残った。今後さらに日本の教育の発展に注目したい。

#### B-6 張丙換

(普通→高い)

日本に来る前は、メディアからの情報しかなく、日本の教育についてあまりよく知らなかった。日本での 9 日間の滞在で 6 校を訪問してから、日本の基礎教育のことをある程度理解できるようになった。

#### B-19 周毅

(高い→高い)

2007 年 10 月、広西省南寧市天桃実験学校友好訪日団の一員として、新潟市南中野山小学校を訪問したことがある（両校は 1992 年から姉妹校として、20 数年来、1 年おきに交流訪問を実施してきた）ので、日本の基礎教育について、ある程度理解していた。今回、7 年ぶりに日本の基礎教育の発展状況を視察するために日本を訪問した。今回の訪問で、両国の基礎教育は、共通の問題に遭遇していると感じた。例えば、学生の学習意欲の低下、コンピューター・ゲームによるマイナスの影響、都市への人口移動による学校の統廃合などである。これらは、注目すべき研究課題である。

### B-33 廖焯

(低い→とても高い)

訪問前は中国国内の教育事情に対する関心はあったが、他の国の教育事情には関心を持っていなかった。訪問後、日本の基礎教育について初めて知ることができた。

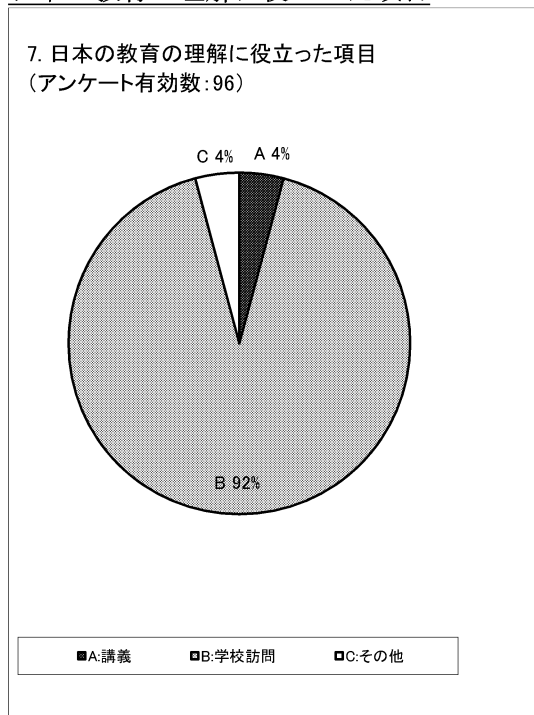
### C-15 楊曄

(普通→とても高い)

現場の英語教師として、中国基礎教育の制度全体を変えることはできないが、今回学んだことを通じて、できる範囲内で自分の教育方法を改善し、変化を周囲に広げたいと思う。今後、さらに日本の教育と文化について理解を深めたい。

### ◆質問7.

#### 日本の教育の理解に役立った項目



【主な意見】 \*原文は中国語

### A-10 童培紅 (学校訪問)

見学をすることで、聴覚、視覚、触覚など五感を通じて、全面的に体験することができ、日本の教育に対する理解が深まった。見学により、主催側が紹介しなかった部分も観察でき、交流することができた。

### A-23 馮好問 (学校訪問)

見学することで、中国の学校教育と比較でき、同時に日本の現場の教師と直接交流できた。

### B-3 田永健 (学校訪問)

学校は教育を行う場であり、教室は授業を行う所である。百聞は一見に如かず。学校に入って、授業を見学して初めて教育について知ることができた。

### B-6 張丙換 (学校訪問)

6校の学校訪問が印象的だった。学校の規模は大きくないが、施設設備が充実していた。東京でも荒尾でも、異なる地域の子どもたちが同様の条件で教育が受けられる。これは中国で近いうちに達成したい教育目標でもある。

### B-19 周毅 (学校訪問)

教育上の共通の問題点と向き合い、教育の考え方や方法を修正することができる。

### B-21 勾建鳴 (その他)

同じ授業を各自の方法で組み立て、授業交流を行う。同じ課題・教学内容を、中国の教師と日本の教師が、それぞれ中国の生徒と日本の生徒を対象に授業を行い、教授法を比較したり、授業の効果を評価したりすることで、それぞれの良いところを学び合う。

### B-33 廖焯 (学校訪問)

学校訪問により客観的に現状を把握できるから。

### C-15 楊曄 (学校訪問)

学校訪問プログラムに参加し、体験することにより、直接日本の教育を知ることができた。

### A-28 文小玲 (学校訪問)

訪問する前は一般的なことしか知らなかった、例えば、清潔で、礼儀正しいなど。訪問後、学校は学校内外の利用可能な施設や環境を活用し、児童生徒のさまざまな方面における技能訓練、危機意識の教育などを行っていることを知り、全面的に児童生

徒を育てる日本の教育に対し理解を深めることができた。

**B-24 王春** (学校訪問・家庭訪問)

学校見学は最も直感的に日本の学校教育の側面について知ることができる。家庭訪問は、最もリラックスした自然な環境で、日本の家庭教育の側面について知ることができ、日中の教職員が友好関係を結ぶことにもつながる。

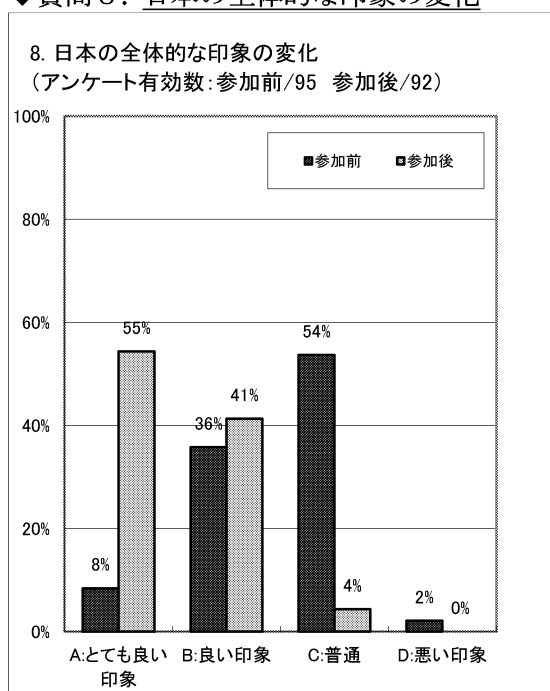
今回のプログラムを通じて、日本人の素養の高さの源を発見できた。

**A-23 馮好問**

(普通→とても良い)

日本人は仕事が大変であるにもかかわらず、勤勉で、規律性が高く、ルールを守り、環境保護への意識が高い。日本の家庭では、子供の教育を重視していて、子供の生活習慣と学習能力に力を入れていると感じた。

◆質問8. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】 \*原文は中国語

**B-1 徐福才 副団長**

(普通→良い)

日本の学校運営の合理性、実務的なところを見た。校長は責任感が強く、教師はとても献身的である。児童生徒たちは勉強熱心で、礼儀正しく、自信を持って自律的に行動できる。日本の政府は教育を重視し、国民は友好的で、社会秩序の良さを感じた。

**B-3 田永健**

(良い→良い)

日本人は真面目で、実務に励み、熱心で、責任感がある。街の中や学校がきれいである。民族文化の継承を重視している。

**B-6 張丙換**

(良い→良い)

日本人は礼儀正しく、責任感があり、規律性があると思う。

**B-19 周毅**

(良い→良い)

日本人の仕事ぶりは真面目で、綿密であり、抜け目がない。また伝統文化の継承を尊重し重視する。これらに関しては、7年前に訪問した時とそれほど変わっていない。今の日本人は前より、もっと環境保護と民族文化の継承に力を入れるようになったと思う。

**B-21 勾建鳴**

(普通→とても良い印象)

見学、交流、家庭訪問等により、日本の国民の素養の高さを理解することができた。

**B-33 廖焯**

(普通→とても良い印象)

親切、周到、面倒見がよく、友好的。

**A-10 童培紅**

(普通→とても良い)

今までの理解は断片的に聞いたことが多く、実際に見たことはあまりなかった。

**C-15 楊曄**

(良い→とても良い)

日本社会全体の文化的レベルは非常に高いと思う。高度な文明は先進的な教育に基づいている。日本人は平和を愛し、伝統を尊重し、継承している。これらのことを日本から学ぶべきだと思う。

**C-24 蔡瑞豊**

(普通→とても良い印象)

交流した全ての日本人は礼儀正しく、平和を愛し、熱心で、親切。

**B-25 周雲 (良い→良い)**

今回の訪問プログラムで多くの学校を見学できたが、日本の文化や伝統文化に触れる機会は比較的少なかった。

に役立つと思う。

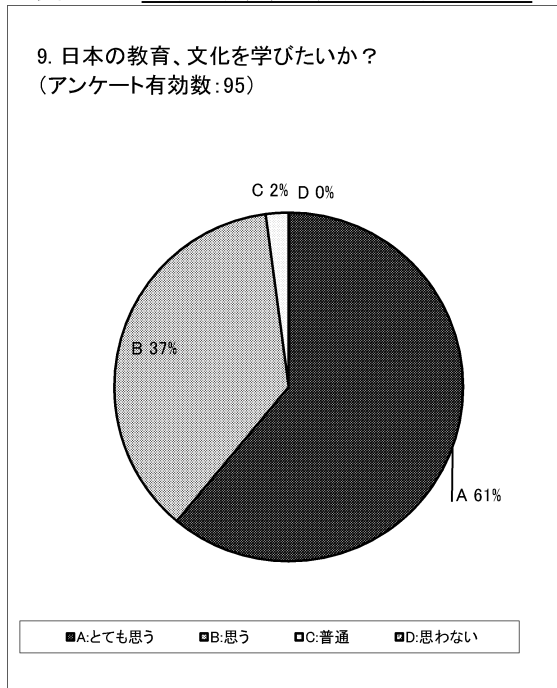
**B-21 勾建鳴 (思う)**

それぞれの民族には良い伝統文化があり、優れた文化は人類の共同財産である。ゆえに、中国人は日本人から学ぶことが大切だと思う。同時に、我々も日本人が中国の伝統文化から学ぶことができることを確信している。

**C-24 蔡瑞豊 (とても思う)**

日本語を勉強し、今後また訪問したい。

◆質問 9. 日本の教育、文化を更に学びたいか



【主な意見】 \*原文は中国語

**A-10 童培紅 (思う)**

今回のプログラムで多くのことを学んだ。学んだことをうまく吸収し、帰国してから自分の仕事に生かしたい。再び来日したいが、仕事の成果が出てからにしようと思う。

**B-6 張丙換 (とても思う)**

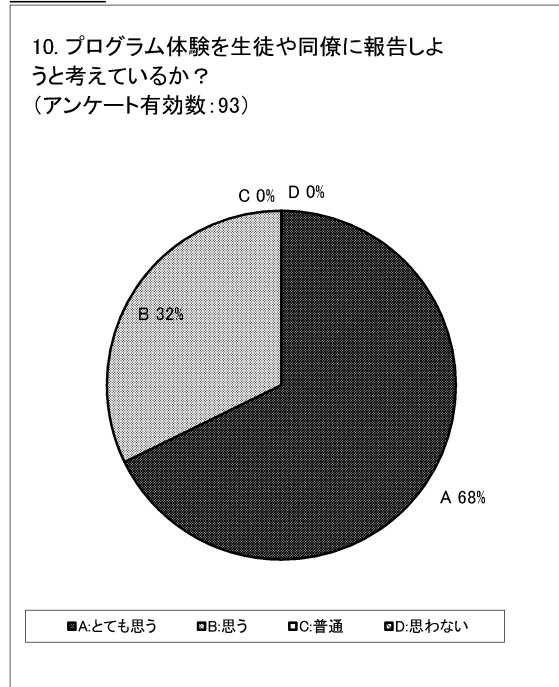
機会があれば、もっと時間をかけて、より深く学び、交流したいと思う。

**B-19 周毅 (思う)**

日本の文化と教育は国際的にも独特なところがあり、進んでいると思う。日本のことを知ることは中国の教育の近代化の実現

◆質問 10.

プログラム体験を生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】 \*原文は中国語

**B-1 徐福才 副団長 (思う)**

日本の良い所、参考になる経験など、日本の教育の現状を紹介したいと思う。

**A-10 童培紅 (とても思う)**

日本の先進的な理念、礼儀正しさを伝えるべきである。私はその友好の輪を広げるための担い手になりたい。

**A-23 馮好問 (思う)**

日本での見聞を伝えたい。特に日本の教育の良さについて知りたい人に、自分の体験したことを話したい。

**B-3 田永健 (とても思う)**

今回の日本訪問はとても有益であった。日本の教師は真面目で責任感があり、真摯に実務に励む仕事ぶりに感心した。また、学校管理がしっかりしていて、学校の環境も整然としている。今回の訪問で見たこと、感じたことを生徒や同僚に伝え、中国の基礎教育の発展に貢献できるように、今後の仕事に生かしていきたい。

**B-6 張丙煥**

学んだことを同僚に伝え、視野を広げてもらいたい。生徒にもある程度伝えたい。

**B-19 周毅 (思う)**

日本の教育と文化は独特なところがあり、有効な方法を参考にすべきだと思う。児童生徒や同僚に今回の体験を伝え、意見交換することで、さらに新しい発想を生み出すことができる。

**B-21 勾建鳴 (思う)**

発展途上国にあたる中国が、さらに近代化を遂げるには、改革開放を推し進めることが必要であり、日本を含むあらゆる国の先進的な経験を大いに取り入れ、平和的な発展と協力・互惠関係を目指すことが重要である。

**B-33 廖焯 (とても思う)**

日中友好の架け橋として、より多くの中国人が日本のことを客観的に理解できるようにしたい。

**C-15 楊曄 (とても思う)**

さまざまな考え方や体験は私自身の教育観に影響を与え、またこれまでの教育に対する考え方を検証することにもつながった。先進的な教育手法を取り入れ、周りの人々と共有したい。

**C-24 蔡瑞豊 (とても思う)**

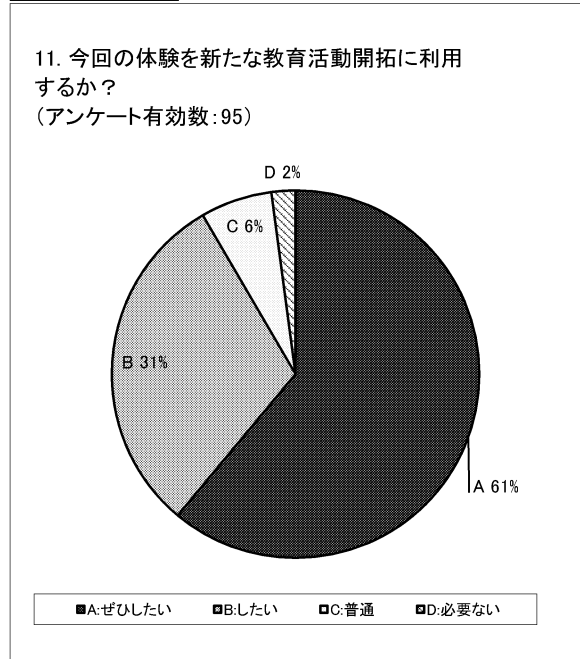
お互い学びあい、理解を促進したい。他

人の長所を学び、自分の短所を改善したい。

**B-22 張盈 (とても思う)**

帰国後、必ず報告会や写真展示などの形式で、同僚や児童生徒たちに日本の教育と文化について紹介し、両国の友好関係を増進させ、今後の交流と発展につなげていきたい。

**◆質問 11. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか**



【主な意見】\*原文は中国語

**A-10 童培紅 (ぜひしたい)**

- ①児童生徒が学校管理に参加できるシステムを構築し、実践の中で人と交流する方法、他人を手助けする方法を学ばせたい。
- ②学校活動で生徒会を設置し、児童生徒に自主的に新年の公演を実施してもらい、教師はアドバイスとサポートのみ行う。

**A-23 馮好問 (ぜひしたい)**

職業実習、生活技能訓練、PTA。

**B-3 田永健 (ぜひしたい)**

教育情報化の業務に携わるものとして、今回の訪問で体験した日本の教育情報化の状況と経験を今後の仕事に生かしたい。特

に応用に着手し、必要に応じて設備を導入したい。

#### B-6 張丙換（したい）

児童生徒の規範や習慣の育成の仕方が一番参考になった。例えば、給食の当番（配膳、食事、食後の片付けなどを含めて、すべて生徒が担当すること）、食べ物を無駄にしない、ごみを勝手に捨てないなど、学校管理において強化すべき内容であると思う。

#### B-19 周毅（したい）

例えば、80年代から、日本は「楽しい体育」のカリキュラム改革を行ってきた。この数十年の弛まない努力により、青少年の体質、身長は明らかに改善され、国民の素質はさらに向上した。日本の教育の経験、目標、方式などを参考にし、①ラジオ体操の品質、②1日1時間のスポーツの時間、③運動部の内容と種目の拡大、④運動処方の指導などを強化していきたい。

#### C-15 楊擘（ぜひしたい）

- ①私が在籍する全寮制の学校の生徒は、ほとんどの時間を学校で過ごしているので、わが校でも「食育」を展開し、「課外活動」を「カリキュラム」に取り入れることができると思う。
- ②授業において、生徒にもっと自分の能力を発揮できる機会を設けていきたい。

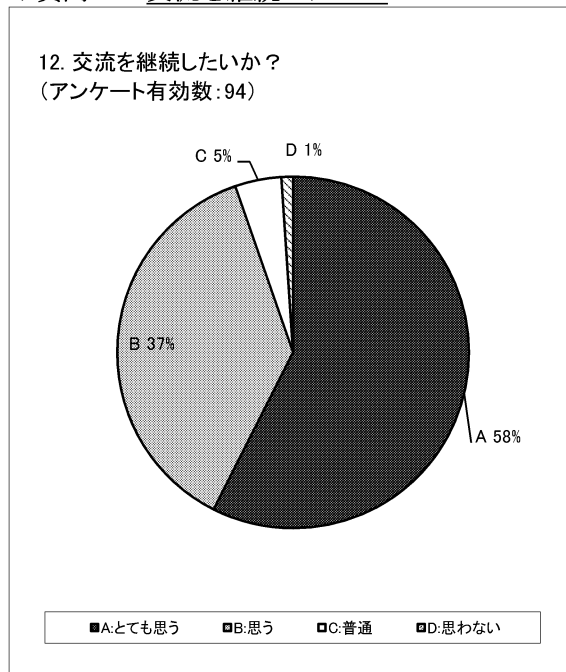
#### C-24 蔡瑞豊（ぜひしたい）

自分の学校で、「食育」や「職業実習」に関わる活動を実施したい。民族文化、伝統文化の教育を重視したい。

#### B-22 張盈（したい）

- ①本校の教師とともに課題研究を行い、授業の中で実践したい。
- ②中国の伝統文化教育を発掘し、教材を作成して、授業を実施したい。
- ③グループ活動によって生徒のチームワーク精神を育てたい。

#### ◆質問 12. 交流を継続したいか



【主な意見】\*原文は中国語

#### A-1 祁品偉 団長（思う）

双方の学校の交流事業の立ち上げ、小中学校の教師と管理部門の人員の日本への視察を計画している。

#### B-1 徐福才 副団長（普通）

学校で授業や管理業務に関わっていないので、交流事業を進める機会はないが、もしそうした計画を立てる場合には、ぜひ支援したい。

#### A-3 童蘇陽（とても思う）

日本の基礎教育における中高生の文化および道徳教育の状況について学びたい。

#### A-10 童培紅（思う）

時間的な制限があり、深い交流ができなかったが、更なる交流の機会を期待している。自分の仕事に生かしたいと思う。

#### B-3 田永健（とても思う）

教育情報化の整備と応用について、日本の教師たちとさらに交流をしたい。

**B-6 張丙煥**（とても思う）

可能であれば、わが校の約 80 名の教師を全部日本に連れて行き、日本の教育の現場を体験してもらいたい。教師の視野を広げることができると思う。生徒が一人前の人間として成長できるように教育することが最も重要である。

**B-19 周毅**（とても思う）

- ①施設見学の内容を減らして、授業交流の時間と内容をもっと充実させた方がよい。
- ②「影の教師」という研修方法を実験的に実施し、教育交流の内容を深めた方がよい。
- ③教師がさまざまな教育資源（美術館、科学館など）を活用するときの経験を学びたい。

**B-21 勾建鳴**（思う）

日中友好姉妹校として交流を続けたい。

**B-33 廖焯**（とても思う）

今回訪問した日本の学校だけではなく、日本の高等教育の教員とも交流したい。

**C-3 劉彦澤**（とても思う）

- ①学校間の交流関係を構築する。
- ②2年に1回、1回20日間、双方の人員を派遣して交流事業を行う。

**C-15 楊曄**（とても思う）

生徒と教師間の交流。

**C-24 蔡瑞豊**（とても思う）

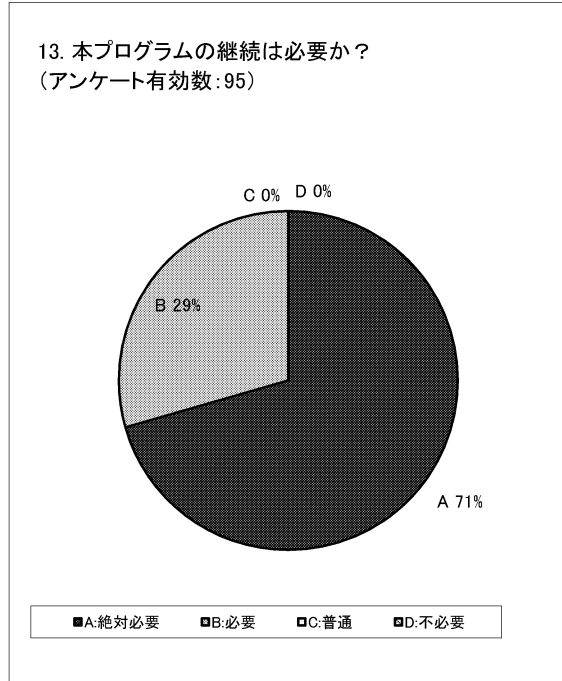
言葉の問題で十分に交流できないのが残念である。しかし、わが校は国際交流活動を盛んに行っている。これから本校の教師を日本に派遣し、交流事業を展開したい。

**A-30 高小波**（思う）

- ①訪問した中国教師と日本教師が一对一の友人として、Email や QQ（無料通話・メールアプリ）などで交流を続け、9日間という限られた日数ではなく、日常的に教育交流を行う。
- ②学校間の交流によって、資源の共有を実現させ、共同発展する。
- ③学生間がネットを通じて交流し、お互い

のことを理解し合い、友好関係を結ぶ。

◆質問 13. 本プログラムは継続必要か



【主な意見】\*原文は中国語

**B-1 徐福才 副団長**（必要）

より多くの中国人教師に、日本の教育の経験と方法を知ってもらいたい。また交流によって、お互いの協力関係を発展させ、両国の教育発展を絶えず推進したい。

**A-3 童蘇陽**（絶対必要）

両国民の理解を深め、民間の友好関係を構築する重要な一環だと思う。お互いに学びあい、共に両国の基礎教育のレベルを高めることに役立っている。

**A-10 童培紅**（絶対必要）

中国は人口が多く、地域発展が不均衡である。より多くの中国人教職員が訪問できるようになることを願っている。

**A-23 馮好問**

比較することによって、足りないところを発見した。交流することで、理解を深めることができた。

**B-3 田永健（絶対必要）**

日中両国は同じアジアに位置し、一衣帯水の関係にある。基礎教育の経験と方法について意見交換することは、双方の共同発展の促進、教育レベルの向上に有益であるし、中日友好、相互理解を深めることにもつながる。

**B-6 張丙煥（絶対必要）**

お互い交流し、相手の長所を学びあい、共に向上していく。

**B-19 周毅（絶対必要）**

- ①両国の教職員の教育に関する経験を学び合い、教育の成果を共有できる。
- ②両国の国民の友好関係を深められる。
- ③両国の青少年同士の信頼関係を築くことができる。

**B-21 勾建鳴（絶対必要）**

教育は世界各国の社会発展と民族文化振興の土台である。国は異なるが、教職員は教育に対する共通の関心を持っているので、交流することでお互い学び合うことができる。

**B-33 廖焯（絶対必要）**

- ①お互いの理解と日中友好関係を促進する
- ②お互い学び合い、共に次の世代を育てる

**C-3 劉彦澤（絶対必要）**

相互理解によって、コンセンサスを得ることができるから。

**C-15 楊曄（良い→とても良い）**

両国民の友好交流を深めることができた。両国の基礎教育における類似点と違いを理解し、お互いに学びあい、共に向上することができる。

**C-24 蔡瑞豊（絶対必要）**

より多くの教師に外の世界を知ってもらいたい。

**B-10 呉少瓊（絶対必要）**

中国と日本の教育目標は一致しており、心身ともに健康な次世代、社会や国家の役に立つ人材を育てることである。今後、更

なる交流活動によって、お互いに学び合えることを願っている。

**◆質問 14. その他気付いた点**

**【主な意見】** \*原文は中国語

**B-1 徐福才 副団長（満足）**

日本は環境保全への取り組みがしっかりしている。国民の環境保護への認識が非常に高い。我々も学ぶべきだと思う。

**A-23 馮好問**

日本料理が美味しかった。  
街がとても綺麗。  
道路が狭く、車が小さい。  
公共文化施設が立派。

**C-2 馬力 秘書長**

中国の教師は日本の特色あるカリキュラム、特に家庭科、手芸の授業に対する関心非常高い。訪問した際、日本の教科書を購入したいという要望があった。

**B-19 周毅**

- ①日本は英語教育を重視し、グローバル化社会に対応できる学生の育成に力をいれるようになった。
- ②日本の基礎教育は中国の基礎教育と同じ問題に直面している。例えば、学生の学習意欲の低下、コンピューター・ゲームの影響による学習意欲の消失など。

**B-21 勾建鳴**

日本の街ではゴミ箱をほとんど見かけない。ゴミを勝手に捨てないよい習慣を身に付けさせ、よい生活環境を保っている。

**B-33 廖焯**

- ①教師の教育交流の内容に関し事前にお知らせを受けていれば、前もって準備できるので、より効果的に交流できた。
- ②交流時間を増やせば、相互理解を深めることができる。



#### **C-15 楊曄**

- ①日本側はスケジュールの作成に時間の無駄がないことを非常に重視している。
- ②日本の基礎教育は協力関係と実行力を重視し、実施において持続性がある。
- ③日本の児童生徒は交流する際に引っ込み思案なところがあると感じた。

#### **C-24 蔡瑞豊**

大学（教育大学）、高校、幼稚園も見学したい。

#### **B-16 馬歩方**

日本の小学生はとても活発的で、校則の縛りなどで子ども本来の天真爛漫さが失われていない。日本では子どもの体力づくりを重視しており、さまざまな体力トレーニングを実施している。寒い日でも、多くの子どもたちが短いズボンを履いていたことに驚いた。学校のあらゆる場所に標語が貼られていて、教師や学生たちが注意を払うべき事柄を提示していた。

#### **A-12 林蓁**

訪問期間中に、学校で警備員を見かけることはなかった。街でも警察官をあまり見かけていない。学生の登下校では、親の付き添いは見られなかった。高齢者の方も第一線で働いていて、仕事熱心であると感じた。タクシーの運転手は笑顔で親切に対応してくれた。

※中国教職員のコメントと提案は、プログラム終了時に参加者に記入を依頼した「総合評価票」をまとめたものです。

## 2. 受入れ教育委員会

### A グループ

#### ●多摩市教育委員会

統括指導主事 石井 正広

##### プログラムの全体的な印象

- 歓迎交流会で中国教職員からこれからは日中の交流がより重要になり、今日がそのスタートになるという発言があったこと。
- ESD に関心がある中国教職員が予想より多くいたこと。

##### プログラム成果

- 児童・生徒との交流ができたことが成果である。例えば、小学校5年生が「英語の勉強していてよかった。」と発言したり、中国からの小学校6年生の帰国児童が交流授業で通訳をしたりと訪問を通して児童・生徒が自らの経験や学習成果を発揮する機会となった。
- ホームビジットの受入家庭から、「中国の教職員と家庭訪問を通して交流ができて本当によかった。また、機会があったら受入れをしたい。」という声をいただき、市民との交流を通して日中の交友を進めることができた。

##### 苦勞した点

- 中国教職員から休憩時間がほしいという希望があり、昼休みを取らないスケジュールが過密だったかもしれないという反省がある。
- ホームビジット受入家庭の募集をする際に、中国語に不安を抱く家庭が多く、通訳ボランティアが必要である。今年度は、市の国際交流協会では事業が重なり通訳ボランティアの確保が難しかった。
- ホームビジットの説明会に事務局

も参加してもらえて助かったが、ホームビジットの活動事例紹介や案内がペーパーで募集時期にももらえるとありがたいと思った。

- 歓迎交流会にたくさんの人を招待するには予算が足りなかった。
- ホームビジットで尖閣諸島の話題が出され通訳が困ったという情報があった。

##### 加えるとよいと思われる活動

- 予算があれば市内観光(サンリオピューロランド)があってもよいのではないかと思った。
- 塾や予備校、幼稚園や保育園などの施設見学をしてもよいのではないか。

### B グループ

#### ●荒尾市教育委員会

指導主事 森川 直美

##### プログラムの全体的な印象

- 歓迎交流会では、地元の日本舞踊の会から「炭坑節」、「球磨の六調子」の踊り、アトラクションでは、元市職員が「北国の春」をサクソ演奏し、日本語で歌って紹介し、テレサ・テンの「空港」、「時の流れに身をまかせ」を中国教職員の方々と一緒に歌った。また、中国教職員の方からは金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」を中国語で朗読して頂いた。さらに、最後に日本舞踊の会と一緒に市長自ら先頭で炭坑節を披露し、一緒になって中国の先生方にも踊っていただいた。全員が大きな輪になりお互いが相手の国と立場を尊重している気持ちが伝わり、和やかな雰囲気の中で交流を深め、友好の絆

を作り上げることができたと感じた。

- 学校訪問（支援学校 1 校、小学校 2 校、中学校 1 校）では、日本の教育への関心が高く、どの学校でも時間が足りないほどの質問を頂いた。支援学校での、一人ひとりのニーズに応じた適切な対応の様子、小学校での全校児童による発表及び歓迎式典、各教室での学校給食試食体験、中国教職員による音楽授業の実施、中学校での全校集会の様子や無音清掃、部活動参観などを体験して頂き、日本の学校教育に直に触れて頂くことができ、有意義な時間を過ごすことができたのではないかと思います。
- 中国の先生方からは、「特別支援教育がきめ細かい。」、「小学生の歌声や態度がすばらしい。」、「教育が地方でも同じように標準化されている。」などの言葉を聞くことができた。日本の教育の良さを改めて感じる機会となり、これからも大切にしていかなければならないと感じた。

#### プログラム成果

- 日本刀剣鍛錬所での視察と体験を通して、日本の伝統文化について理解を深めてもらうことができた。
- 各学校の訪問では、中国の先生方から積極的に質問いただき、また、学校側からも詳しく説明をしてもらい、日中の教育の違いやそれぞれの課題について共有できた。
- お互いの国の教育の特徴や良さについて改めて認識することができ、互いに教育者としての見識を広げることにつながった。
- ホームビジットでは、中国の先生方と受け入れ家庭の方々との日常の交流ができ、お互いに充実した時間を過ごすことができたという声がたくさんあった。

#### 苦勞した点

- ホームビジット受け入れ家庭や通訳の方を探すのに多くの時間がかかった。
- 遠方からの通訳ボランティアの方には、旅費が少なく心苦しかった。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 市として受入れは非常に前向きですが、予算措置が厳しい状況のため活動プログラムに大変苦慮します。

#### プログラム改善に向けた助言

- 予算が厳しいと思いますが、国際交流事業の趣旨から、市としても安心して事業受け入れができるようになればと願っております。

## C グループ

- 長崎市教育委員会  
指導主事 久松 千樹

#### プログラムの全体的な印象

- 中国の方々から特別支援学級の体育交換会で感銘を受けられていたことに、日本の特別支援教育に誇りをもつことができました。
- あの時体育館におられた先生方にとっては、全くあたりまえのことをあたりまえに行っているだけであり、何に対して感銘を受けたのかさえよく分からないと言っていました。教育って「あたりまえのことをあたりまえに」が一番難しく、そして大切なんだと改めて気づかされました。

#### プログラム成果

- かかわった子どもたちや先生方が、草の根交流の大切さを体感したことだと思います。また、中国の先生

方が音楽部の生徒にあてて書いてくれた手紙は、本当にありがたかったです。また、市の職員が翻訳してくれたものを学校に届けると心から喜ばれていました。あのような何気ない一手間が大切だと、私も温かい気持ちになりました。

#### 苦勞した点

- 通訳ボランティアが意欲的な方々ばかりだったので、減員を余儀なくされた時の調整。

### 3. 受入れ学校

#### A グループ

- 埼玉大学教育学部附属中学校  
副校長 牛久 裕介

#### プログラムの全体的な印象

- 教育機器を使用した授業や、生徒の課題提出を促す掲示に強い関心を抱いていたように思い、本校と同様の課題に取り組んでいることがうかがえました。

#### プログラム成果

- 中国と日本の教育システムの違いに触れることができた。(教育課程、クラブ活動、道徳教育等)
- 共通の課題があることを認識できた。(生徒や教員の心身の健康維持、学力格差など)

#### 苦勞した点

- 教育実習期間の関係で、もとよりゆとりのない教育課程になっているので、生徒を交えた教育活動を組めなかった。

- 星美学園小学校  
教務主任 星野 和江  
主幹教諭 馬場 美枝子

#### プログラムの全体的な印象

- 今回は、中学や高校の先生方が多かったので、懇談会での質問も以前、お迎えした先生方と異なっていた。本校の児童の様子を見て、学校として教員の指導方法についての質問があった。本校の建学の精神である、「いつも子どもと一緒にいる」ということにより、信頼関係が築け、児童も決まりを守り、明るく生活できると返答した。
- 学校の安全対策についての質問があった。それについて、登下校の時のメール配信、毎月の避難訓練・正門の警備員配置、教員や保護者による登下校指導など、校内外の安全について、説明した。教育の内容というより、児童の生活指導や安全指導などに関心がある様子であった。

#### プログラム成果

- 中国の先生方をお招きすることにより、日頃の学校生活の中で頑張っていることをお見せできて、児童は喜んでお迎えしていた。学校では、教頭が、前日に中国について全校朝会で話し、児童が中国についてある程度理解した上でお招きしたので、関心を持ってお迎えができた。
- 中国の教員の方々と関わりを持つことにより、より親近感を持つことができ、国際理解につながった。

#### 苦勞した点

- 訪問の時間が予定より遅れ、その後の教育活動で、少しずつ時間をずらして実施した。できれば、時間通りに来校していただけると有難かった。

## 加えるとよいと思われる活動

- 訪問された方々の学校の様子を知るために、いらした先生方の学校の様子などを10分程度のビデオで紹介するなどの企画があると児童にも中国の学校の様子がわかる。

## ●東京都立多摩桜の丘学園

副校長 田中 裕司

### プログラムの全体的な印象

- 先生方が、非常に熱心に障害児教育の内容について見学したり、質問する様子が印象に残った。
- 障害児教育の学校システム、障害者の社会自立についての関心の高さと具体的方法についての質問が多く、課題は日本とあまり変わらないと感じた。

### プログラム成果

- 中国の障害児教育の課題が、①入学相談、学級編成、教員組織等障害児教育の学校システム②学校を卒業した後の社会自立、企業就労等、の2点を中心であり、日本と共通する部分が非常に多くあること、今後交流することで新しい発想やシステムの構築に役立てられることが多かった。

### 苦勞した点

- 学校の説明、見学、意見交換を行うには、少し時間が短い感じがした。
- 見学などグループの人数が10人ぐらいで動けると、より効率的に内容の説明も効果的に行えるように思う。

## 加えるとよいと思われる活動

- 児童・生徒たちと一緒に授業に参加しながら交流できるとよい。

## ●多摩市立東愛宕中学校

教諭 吉島 美樹

### プログラムの全体的な印象

- 今回の中国の教員の方々を受け入れさせていただいたことは、生徒にとって、とてもよい学びの場となった。給食を一緒に食べたり、中国の先生の授業を実施していただいたり、体育の授業で一緒に競技を行ったりすることで、言葉の壁を越えて交流が出来た。互いの文化や風習の違いについて直接話を聞く機会は、生徒たちにとってかけがえのない国際理解の場となった。

### プログラム成果

- 欧米の国々だけではなく、アジアの国々に関心をもつよい機会となった。特に3学年の生徒は、体育の授業を一緒に受けることで、中国の方々に対して以前より親しみと好感をもつようになった。このことは、これからの国際社会を生きる生徒たちにとって、貴重な経験となった。

### 苦勞した点

- 給食を一緒に食べるときに、連絡がうまく行き渡らず、配膳や移動で混乱した。中国語が堪能な教員がいたのでなんとか切り抜けることができたが、英語が通じない先生方も多かったので、通訳の出来る方が常に一緒にいる必要があると感じた。

## 加えるとよいと思われる活動

- 今回のように運動などの一緒に出来る活動を取り入れることで、生徒たちの生き生きとしたありのままの姿を見ていただけた点が良かったと思う。しかし、教員との交流に時間が少なかったので、学校の視察の時間以外に教員の有志で交流できるような企画があるとよい。

●多摩市立豊ヶ丘小学校  
副校長 福田 章人

プログラムの全体的な印象

- 日本の小学校の様子について一生懸命理解しようとされておられた。給食の交流時間等、積極的に児童に話しかけておられた。デジタルカメラだけでなくタブレットで動画・画像を撮られる方が多かった。

プログラム成果

- 児童にとって、昔からお付き合いが深い隣人である「中国」について、具体的なイメージを深めることができた。中国から来た児童がいたため、今回の交流で子どもからの質問の通訳を務めた。彼の活躍の場となった。
- 職員にとって、草の根の国際交流の現場を体験することができた。
- 学校にとって榮譽なことであるので、地域・保護者からの信頼を高めることとなった。

苦勞した点

- 時間的な制約もあったため、来訪者にとって知りたいことに答えるプログラムとなっていたのか不安が残ります。

加えるとよいと思われる活動

- 両国の一般的な学制、生活時程、各学年の時間割、担任制度、児童数、職員数等の紹介資料を渡しておく。
- 研究授業協議会の体験

プログラム改善に向けた助言

- 校種をそろえたり、教科をそろえたり、教育方法（ICT等）をそろえたりすると、指導観や指導内容、指導法、教育課程についてお互いに考えを深めることになると思います。

B グループ

●東京学芸大学附属世田谷小学校  
副校長 藤田 留三丸

プログラムの全体的な印象

- 訪問団の真摯な参加姿勢に感銘を受けました。教員という職種の方々という特性もあるかもしれませんが、参観対象全般に対する興味関心の度合が高く、好奇心旺盛、かつ進取の精神に溢れたようすに見習うべき点が多かったです。
- 参観後多数の質問を頂きました。その内容は質が高く具体性に富むものがほとんどでした。学校体制やカリキュラム、授業の構造に関する基本的な考え方等、教育現場ですぐに役立つ内容が多かったと思います。よいと思われることは直ぐに子どもたちのために、そんな思いが伝わってきました。

プログラム成果

- 教育に携わる者同士、言語や文化は違えど子どもや教育にかける心意気や思いは同じだということを確認できたことは大きな成果であったと捉えています。異なる考えや方法論が存在するのは当然のことです。それがどの程度の相互理解に立脚して主張されているのかが大事だと考えます。正しく相手を理解する。簡単なようで難しいことですが、大事なものは継続です。そのことも改めて意識させられました。

苦勞した点

- 申し訳ないことに本校はお迎えするための特別な準備を致しませんでした。30余人の先生方がお見えになったにもかかわらず本校では限られた教職員でしか対応できず、その点お客様に失礼があったのではないかと案じております。ただ、

日常の教育活動をご覧頂きたいという私たちの思いが伝わっていただければ幸いです。

- また、複数授業参観を 1 時間でお願いたうえ、質問時間も短く、参観者の先生方に消化不良があったと思います。この時期の学校事情で諸事理由があったことご理解頂ければ有り難いです。

#### 加えるとよいと思われる活動

- レクリエーション活動。例えば玉入れなど。

### ●和光小学校 校長 北山ひと美

#### プログラムの全体的な印象

- 4年生と6年生の民舞を見て頂けたこと、4年生、6年生に中国の先生による授業をして頂けたことがよかったです。
- 1年生の算数を参観された先生から、自主編成の教材についての質問を受け、和光小学校の考え方をお伝えすることができました。子どもたちが「わかる」ために独自にカリキュラムを組み、教材や教具を工夫しています。「子どもたちが生き生きと学んでいる」「楽しそうに学習している」という感想をいただけたことがうれしかったです。

#### プログラム成果

- 中国の先生による授業をして頂けたこと。4年生は総合学習「中国」の導入にふさわしい内容で、多くの民族が様々な文化を持って暮らしていることが子どもたちの印象に残っています。6年生への授業では、ビデオも見せていただきながら説明していただき、「大気汚染」など、子どもたちが持っていた印象と違い、自然豊かな国であることや、中

国の学校の様子などもわかり、興味深く学ぶことができました。

- 短時間の訪問ではありましたが、本校教職員と交流できたのは、お互いの国の学校事情を垣間見ることもでき、よかったと思いました。

#### 苦勞した点

- 教職員との懇談の時間は、実質的に50分ぐらいでしたが、お互いに知りたいこと、質問したいことがたくさんあり、通訳を介してでは十分に話すことが難しかったと感じました。せめて、あと20分は交流の時間をもちたいと思いました。
- 4年生の授業が長引いたことで通訳の交代がスムーズにいかず、美術の参観は10分ほど説明をすることができませんでした。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 本校で取り組んでいる日本の民舞を見ていただきましたが、授業だけではなく子どもたちの多様な姿を見ていただき、交流できるといいと思いました。

#### プログラム改善に向けた助言

- 通訳の方があと1人か2人いらっしゃると、もう少し少人数のグループで見えていただき、交流も深められると思います。

### ●熊本県立荒尾支援学校 教頭 堀川 丞美

#### プログラムの全体的な印象

- 高校生の学習を見ていただいた際に、障がい者雇用施策等熱心にお尋ねがあっていたのが印象的でした。
- 最後に小学部で「炭坑節」を踊ったが、中国の皆さんはすごく積極的でよいムードでした。

- 来校されてすぐに撮った記念写真を、帰りにラッピングしてお渡ししました。その時、近くに座っていた方が、私を見て「ありがとう」と日本語で言われました。こちらの心配りが伝わったことを実感し、とても嬉しく思いました。
- 全ての日程を終了し、バスで帰られる時に、高等部の生徒が自主的に見送りに来て手を振っていました。それに対し中国の先生方が、バスの窓から笑顔で手を振られていました。生徒達の思いを受け止めていただき、これも嬉しく感じた場面でした。

### プログラム成果

- 短時間ではありましたが、実際に授業を参観していただいたのは、日本の一支援学校の取組ということで良かったのではないのでしょうか。
- 生徒たちはおぼえた中国語のあいさつをするなど予想以上に自然体で受け入れていました。
- 日中関係が、政治的にはいろいろと問題が起きている状況の下で、お互いの教育関係者が交流を継続していくことは意義深いものがあると思います。

### 苦勞した点

- 変更のきかない校外行事があったので、学校見学が十分できなくて残念でした。
- 前回より訪問される先生方の数が増えていたので、施設案内の時に大丈夫かどうか不安に思っていました。結果的には、特に支障はありませんでした。

### 加えるとよいと思われる活動

- 子どもたちの学習の様子や学校の施設を参観するだけでなく、児童生徒との交流場面が設定できるのではないのでしょうか。子どもたちと訪問団の先生方が、炭坑節を一緒

に踊っている場面が、とてもいい雰囲気でしたので。

- 炭坑節は、前夜の交流会で、地元の方から指導を受けられていたそうです。交流会と翌日の参観が結びつくような企画があると、いいのではないのでしょうか。

### プログラム改善に向けた助言

- 通訳の方を少し増やすことができればと思います。
- 教育課程や施設面に関する質問等は、事前にまとめておくと効率的だと思いました。交流も何度か重ねてきたので、Q&A 集や日中の教育システムの違いなどをまとめた冊子を作成しておく、今後よりスムーズに交流を進められるのではないのでしょうか。お互いの理解も進むのではないかと考えます。

### ●荒尾市立荒尾第三中学校 教諭 山 理武和

#### プログラムの全体的な印象

- 中国教職員の方々は一貫して全体的にマナーよく行動されていました。荒尾市の歴史や文化、本校の教育について好意的に理解していただき、交流を深めることができました。ある中国の先生が「無音清掃」を見られて、三中生は美化意識が高い、是非自分の学校でも取り入れたいとおっしゃったことが印象的でした。

#### プログラム成果

- 本校生徒がスクールプライドを持って、本校の良さをアピールすることができました。一方で、中国の先生方の訪問、質問等で日本の教育や本校の教育のよさを見出すこともできました。
- 生徒たちが中国の先生たちと挨拶などを交わす場面を数多くみるこ



とができ、さらなる日中の教育・文化交流と国際理解へとつながることを期待したい。

#### 苦勞した点

- 普段の本校の授業その他の学校生活の様子や生徒たちの姿を見ていただくということで、特段企画・運営面で苦勞したことはありません。
- 1つ挙げるとするならば、授業参観や清掃指導を巡回したときに集団がばらけてしまい、次の時間に少し食い込んだことです。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 日本教職員が中国を訪問するときも1日ホームステイやホームビジットがあるとよいと思いました。また、日本教職員が訪問する学校は、先進校や研究指定校もいいが、地域に根ざした公立小・中学校の普段の授業の様子をみるのが大切だと感じました。

#### プログラム改善に向けた助言

- 本来は各自中国語の簡単な会話ができるようにして本事業に参加すべきだと思います。参加者ができるだけ中国語研修を積んで、中国訪問をした方が得るものが多くなると強く感じました。

### ● 荒尾市立中央小学校 教頭 友田 俊司

#### プログラムの全体的な印象

- 体育館で、全校児童との交流の時間を1時間持ちましたが、中国語をきちんと聞くことが初めてであり、とても印象的な時間となりました。特に、中国の小学校の児童数など、日本との違いに驚く児童が多く見

られました。

- 各学級に1~2名、給食を一緒に食べていただきました。通訳も居ない状況でしたが、漢字の筆談等で楽しかったという感想が聞かれました。

#### プログラム成果

- 日本においては、中国のイメージは決してよいものとは言えませんが、来校された先生方の笑顔、お話等によって、イメージはよくなったと感じています。中国の小学校の児童からのプレゼント(中国ですばらしい賞をもらったという書)もいただきました。大切な宝物として、校舎内に展示する計画です。

#### 苦勞した点

- 1日に2校回られるということで、かなり厳しい日程になったと思います。本校職員との交流・意見交換の時間が設定できなかったことが残念です。教員同士、もう少しお話が出来ればもっと有意義になったと感じています。

#### 加えるとよいと思われる活動

- 中国の先生に、簡単な中国語を本校児童に教えてもらってもっと交流につながったのではないかと思います。それぞれの先生の教科などの授業もおもしろいと思います。

#### プログラム改善に向けた助言

- 中国の先生方やその担当する児童から、すばらしいプレゼントをいただきました。特に、児童が書いた「書」など、本当に貴重なものと思います。急なことで、本校の児童からのお返しが準備できなかったことが申し訳なく思っています。礼には礼でお返ししたかったのですが、ホームビジットでも、お土産をいただきました。これも思いがけなかったので、

お返しをどうしようかと苦労しました。妻が作っていたテディーベアをそれぞれにお渡ししました。事前に教えていただければ、準備可能と思います。

●荒尾市立緑ヶ丘小学校  
教頭 上原 泰

プログラムの全体的な印象

- 中国からの訪問団の先生方は、とても友好的な印象であった。帰り際には、「ありがとう」と日本語で言葉をかけていかれる方もいて、お互いに笑顔で挨拶などを交わすことができた。
- 高学年は、交流活動をしたり、中国の先生から指導をしていただいたりしたが、内容や時間など、もう少し細かく計画、打ち合わせが必要だったと感じた。
- 先生方が、非常に熱心に障害児教育の内容について見学したり、質問する様子が印象に残った。

プログラム成果

- 子どもたちが、普段あまり耳にすることのない「中国語」を直に聴くことができた。
- 子どもたちの中国など隣国に対する興味・関心が高まった。

苦労した点

- 午後の時間で設定したが、2時間の授業参観と意見交換会では日程的に厳しかった。質疑応答の時間が大幅に延びてしまったので、事前の計画から十分に時間を確保しておけば良かった。
- 質疑応答の中では、たくさんの質問が出され、日本の教育に興味を持っておられることを実感したが、できれば事前に質問内容などが分かっていたら確かな答えができたかも

しれない。

- 授業参観で校内を案内した際に、施設・設備や掲示物、授業の様子などについてたくさんの質問が出ていたが、1グループ（15人程度）に通訳さんが1人だったので対応が厳しかったと感じた。

加えるとよいと思われる活動

- 協議の時間に、日本の学校の様子について紹介するだけでなく、可能であれば中国の教育事情などについて話をしていただき、互いに質問したり、意見を交換したりすることができれば、職員の国際理解に関する研修になると思う。

C グループ

●筑波大学附属中学校  
副校長 小山 浩

プログラムの全体的な印象

- 中国の方々が非常に熱心でいらっしゃったことが印象深く残っております。どの方も授業を真剣に見ておられたと思います。最後の意見交換会でも、授業のこと、学校の組織、教育研究の事等、これからの中国教育を背負って立つという自負を感じられました。
- また、本校1年生の国語の授業で、漢詩を中国の国語の先生に朗読していただいたのには、感激いたしました。

プログラム成果

- 教育に対する、教員相互の交流を持てたことが第一です。相互理解が進んだことはもちろんですが、教育にかける情熱を共有できたことが大きいと感じます。

## 苦勞した点

- ▶ 同時通訳の方が、参加者全員にマイクを通して、本校の教員が話している内容を、授業の様子と併せて解説していただいたことは、理解促進に役立ったと思います。
- ▶ 事前にそのような手法をとることをお知らせいただければ、本校の授業者も、授業中の私語と間違ふことなく、授業が進められたかと思えます。

## 加えるとよいと思われる活動

- ▶ 教育講演会のようなものはいかがでしょうか。本校で行っている教員免許状更新講習会の講義内容(例えば「教師論」のようなもの)を聴いていただくのも面白いかもしれません。

## プログラム改善に向けた助言

- ▶ 授業はできれば興味ある教科をもう少し長く観ていただいたほうがよいとは思いますが、全体の様子をご自分の担当教科を超えて見学するのも必要なことであり、悩みどころと思います。

## ●立教女学院中学校・高等学校

教頭 山岸 悦子

### プログラムの全体的な印象

- ▶ 最初のごあいさつで、たいへん温かいお言葉を戴き感謝いたします。本校では特に日頃の「挨拶」を大切にしておりますが、歓迎の気持ちで挨拶ができたのではないかと嬉しくなりました。
- ▶ 全体を通して、皆さまとても熱心に見学・視察をなさっていて感激いたしました。質疑応答の時間も楽しく、時間が足りないくらいでした。通訳の方も素晴らしかったです。さまざま

まなご配慮があり感謝いたします。

## プログラム成果

- ▶ 本校を会場にしての中国の先生方との交流は初めての経験でした。あらためて、私たちがアジアの一員であり、交流を深めていかななくてはならないことを感じました。貴重な機会を与えていただき有難うございます。
- ▶ 本校と海外の学校との交流もこれまでできており、アジアではフィリピンの姉妹校と交換留学が行われています。しかし、アジアは広く、国によって言語も文化も様々で、その豊かさを感じました。特に中国は漢字を使う国ですから、親しみも感じます。日本を理解する上でも、中国との交流は大切であることを再認識いたしました。

## 苦勞した点

- ▶ パワーポイントを中国語に翻訳していただきありがとうございました。こちらの準備が遅くなりご迷惑もおかけしたかと思っています。私は中国語がまったく分からないので、通訳を通してのお話しになりましたが、意外と楽しいものだと感じました。通訳の方のご配慮に感謝いたします。

## 加えるとよいと思われる活動

- ▶ 本校には中国の学校(日本人学校ではありませんが)に通っていた帰国生がいます。中国語を話せる者もいるので、そういった生徒との交流があってもよいかと思えます。
- ▶ 生徒は中1から高3まで毎年「漢文」を学習しています。教科書なども見てもらえるようご用意すればよかったですと思いました。
- ▶ 教科間の情報交換もよいかと思いました。例えば英語など。言語的にコミュニケーションが容易なので。

## プログラム改善に向けた助言

- ▶ 中国と日本の教育システムの対応表のようなものがあると、概要を頭に入れてから、さらに深い質疑応答ができたかもしれないと思いました。

### ●長崎市立朝日小学校 教諭 池田 敏典

#### プログラムの全体的な印象

- ▶ 訪問された方々が、子どもたちに優しく接して下さった。子どもたちが話しかけると、耳を傾け、一生懸命に理解しようとして下さったり、低学年の子どもたちは、抱っこされたりしてもらっていた。

#### プログラム成果

- ▶ 子どもたちが、何とかコミュニケーションをとろうと、紙に漢字を書いて伝えたり、英語で話しかけたり、ジェスチャーを交えたりと、それぞれに考えて工夫していた。
- ▶ 本校は、「国際人育成」をスローガンに掲げていますが、そこにつながる教育活動ができた。

#### 苦勞した点

- ▶ 昨年度の交流事業をふまえ、計画、運営を行ったので、スムーズにできました。
- ▶ 交流給食では、通訳なしだったので、不安があった。英語が通じなかったので、できれば、コミュニケーションをとる手段を、事前に確認したかった。
- ▶ 意見交換会で時間が足りないことに心配がありました。(全体的に時間配分が難しかった。)

## 加えるとよいと思われる活動

- ▶ 子どもたちと一緒に活動する時間が増やせたらよい。中国の文化や生活・学校の様子を、簡単にでも紹介してもらえると、さらに興味・関心がでると思われます。

### ●長崎市立片淵中学校 教頭 福浦 豊治

#### プログラムの全体的な印象

- ▶ 中国の方々は、どの方も熱心に参観され、言葉は通じないながらも子どもたちとも親しく交流を図ろうとする姿勢には感心させられました。

#### プログラム成果

- ▶ 夏には中国の中学生との交流を実施していたので、子どもたちは特に緊張することなく対応できたと思っています。子どもたちの国際交流に関する意識が深まったと思います。

#### 苦勞した点

- ▶ 急なことだったので、すべてにおいて慌ただしかった。そのような中、子どもたちはもちろん職員も積極的に動いてくれた。もっと時間に余裕があれば、より内容の濃いことができたと思われる。

#### プログラム改善に向けた助言

- ▶ お忙しい中、関係機関とのやりとりもたいへんだと思いますが、学校現場としてはやはり時間的なゆとりがほしいです。今回のようなケースであれば、できれば夏休み前には提案していただきたいと思います。

●長崎市立淵中学校  
教頭 板見 剛

プログラムの全体的な印象

- 実際に中国の方々とお話しする中で、中国に対する印象が変わりました。教師集団ということもあるので、教育に対して大変熱心に取り組んでいらっしゃる様子や、日本に対しても決して否定的な感情ばかりではないということが分かりました。
- 意見交換の中で、道徳教育や、日本の教育制度(特に長崎県の教職員の転勤制度)に対する興味の高さは印象に残りました。

プログラム成果

- 他国の方々をお迎えする準備段階で、習慣の違いを目のあたりにし、国際交流を深めるに当たって他国の歴史や文化を学ぶ必要性を感じることができました。
- 日本では、アメリカを代表的な外国としてみている雰囲気がありますが、近隣国の中国について学ぼうという良いきっかけになったと思います。そういう意味で、3年生全学年生徒が国際交流を体験できたことは、大変貴重であったと感じています。

苦勞した点

- 既存の本校の地域交流行事(餅つき)をこの機会に実施しましたが、餅つきに慣れている3年生とはいえ、まだまだを人に教えるというところまでは至っておらず、PTAや地域の方々の協力なしでは実施できない状況でした。学校にノウハウがない行事を平日に実施するのは、無理があったという反省を持っています。
- また、40名程度のお客様をお迎えできるスペースの確保には大変悩

まされました。結果として、臨時の部屋を確保できたのですが、日頃からオープンスペースの学校の長所を生かしたスペースの利用を考慮しておく必要があると感じました。

プログラム改善に向けた助言

- 一部の教師、一学年分の生徒との交流であったのですが、中国の方々の姿を見ていて、本校全職員にも交流を持ってもらいたかったと思います。長期休業中にこのプログラムが行われると、良かったのではないかとともに思います。

# 付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 過去のプログラム実績



## ◆付録 1. 実施要項

### 国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業 中国教職員招へいプログラム

第一班 : 2014 年 10 月 19 日(日) - 27 日(月) : 東京都

第二班 : 2014 年 11 月 16 日(日) - 24 日(月) : 東京都、熊本県、長崎県、福岡県

## 実 施 要 項

### 1. 背 景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) は、国際連合大学の委託を受け、我が国と中国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際教育交流事業として 2002 年より中国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。さらに、2003 年からは日本国内で訪問した自治体や学校が中国とのさらなる交流を深めることを目的として日本の初等中等教育教職員が中国を訪問するプログラムを実施してきました。2014 年 6 月までに中国から招へいした教職員数は延べ 1364 名にのぼり、日本から訪中した 274 名と合わせ、日中間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきました。

本年度も文部科学省、中国教育部、および東京都多摩市、熊本県荒尾市、長崎県長崎市の各教育委員会の協力のもと、中国から初等中等教育教職員約 100 名を 2 班に分け、それぞれ 9 日間にわたり、2014 年 10 月 19 日(日) から 10 月 27 日(月) までと、2014 年 11 月 16 日(日) から 11 月 24 日(月) まで本邦に招へいします。

### 2. 目 的

- (1) 日本の教育制度および地域の学校教育の現状を紹介すること
- (2) 学校等での意見交換を通じて、日中の教育の質を高めること
- (3) 日中教職員間のネットワーク構築・強化に寄与すること
- (4) 日本の文化全般に対する理解を深めること
- (5) 日中両国の相互理解と友好を促進すること

### 3. 日 程

本プログラムは、下記の日程で実施される予定です。

第一班：第一班は、1 グループ 34 名で実施される。

日付	日程	訪問先	活動
10月19日(日)	第1日	東京	日本到着 オリエンテーション
10月20日(月) 10月21日(火)	第2-3日	東京	文部科学省表敬訪問、日本の教育に関する講義、 歓迎交流会 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流)
10月22日(水) - 25日(土)	第4-7日	東京都多摩市	東京都多摩市へ移動 教育長表敬・訪問地教育事情概要説明、 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流) 教育文化施設視察 情報共有会 ホームビジット
10月26日(日)	第8日	東京	史跡・教育文化施設訪問
10月27日(月)	第9日		日本出発(北京へ)



第二班：第二班は2グループ、各33名程度とする。

日付	日程	訪問先	活動
11月16日(日)	第1日	東京	日本到着 オリエンテーション
11月17日(月) 11月18日(火)	第2-3日	東京	開会式、日本の教育に関する講義、 歓迎交流会 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流)
11月19日(水) - 22日(土)	第4-7日	グループごとに、熊本県荒尾市 または長崎県長崎市	各地方都市へ移動 教育長表敬・訪問地教育事情概要説明 学校訪問(授業見学、教員、児童生徒との交流) 教育文化施設視察 情報共有会 ホームビジット
11月23日(日)	第8日	福岡県福岡市	福岡県福岡市へ移動 報告会・閉会式
11月24日(月)	第9日		日本出発(北京または上海へ)

#### 4. 参加者数

合計100名(第一班34名、第二班66名)

#### 5. 参加資格

- (1) 中華人民共和国の国民であること。
- (2) 所属する学校等からの推薦を受けた、初等中等教育の教職員であること。(教育行政官及び教育専門家を含む)
- (3) 日本への関心が高く、日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの。
- (4) 中国語(普通話)での会話が可能であること。
- (5) プログラムの全日程に参加が可能であること。

#### 6. 評価と報告

- (1) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入し、最終日に ACCU に提出する。
- (2) 第二班の各グループの代表者は、報告会において発表を行う。

#### 7. 渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。

- (1) 往復航空運賃  
北京と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
- (2) 宿泊と食事  
プログラム期間中のシングルルーム(朝食含)、およびプログラム期間中の食事。食事が提供されない場合については食費の規定額。
- (3) 日本国内の移動旅費  
プログラム期間中の、自由行動時間以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

#### 8. 海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

## 9. 通訳

公式プログラム期間中は日本語と中国語（普通話）間の逐次通訳が行われる。

### 10. 申請・推薦手続

中国教育部は、参加者を選定し、プログラム開始約1年半前（第一班9月5日、第二班9月30日）までに参加者のデータシートを揃えて、ACCUへ推薦することとする。

### 11. このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 人物交流部  
〒162-8484 東京都新宿区袋町6番地 日本出版会館  
Tel: 03-3269-4498, 4435 Fax: 03-3269-4510  
E-mail: [accu-exchange\\_ml@accu.or.jp](mailto:accu-exchange_ml@accu.or.jp)

◆付録2. プログラム日程  
 (1)第1班プログラム:Aグループ

第1日(日本到着日)		10月19日(日)
北京	08:30	北京首都国際空港発(NH956便)
東京	13:05	成田国際空港着
	14:00	移動(バス)
	15:00	第一ホテル両国着(チェックイン)
	15:30-17:00	オリエンテーション(第一ホテル両国5階「清澄」) 夕食(各自)
		宿泊先:第一ホテル両国、明日の服装:ビジネス
第2日		10月20日(月)
東京	08:45	ホテル出発
	09:30-10:00	文部科学省表敬訪問
	10:00-11:30	講義(於:文部科学省)
	12:00-13:00	昼食
	18:00-20:00	歓迎交流会(第一ホテル両国4階「楓」)
		宿泊先:第一ホテル両国、明日の服装:ビジネス
第3日		10月21日(火)
東京	07:45	ホテル発
	9:00-11:40	埼玉大学教育学部附属中学校
	12:30-13:00	昼食
	13:00-16:00	星美学園小学校
	17:00	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:第一ホテル両国、明日の服装:ビジネス
第4日		10月22日(水)
東京	10:30	ホテル発、多摩市へ移動
	12:00-13:00	昼食
多摩	13:30-14:00	多摩市教育長表敬訪問(多摩市役所401会議室)
	14:00-15:00	多摩市教育概要オリエンテーション、市役所・教育委員会見学
	15:15-17:00	ベネッセコーポレーション見学
	17:15	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:京王プラザホテル多摩、明日の服装:ビジネス
第5日		10月23日(木)
多摩	09:05	ホテル発
	09:25-11:25	東京都立多摩桜の丘学園訪問
	11:45-16:45	多摩市立東愛宕中学校訪問(給食交流)
	17:00	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:京王プラザホテル多摩、明日の服装:ビジネス

第6日		10月24日(金)
多摩	09:00 09:15-13:15 13:30-14:30 14:45-15:45 16:00-16:30 17:00 18:00-20:00	ホテル発 多摩市立豊ヶ丘小学校訪問(給食交流) 永山公民館見学 パルテノン多摩見学(鶴牧中学校音楽祭、歴史ミュージアム) 古民家「旧富澤家」見学 ホテル着 歓迎交流会(パルテノン多摩 5階「トレーノ・ノッテ」) 宿泊先:京王プラザホテル多摩、明日の服装:ビジネス
第7日		10月25日(土)
多摩	09:00 09:15-10:00 10:00-11:20 11:30-12:00 12:30-13:30 13:45-20:00	ホテル発 教育センター見学 情報共有会(多摩市教育センター202 研修室) 多摩市諏訪中学校(合唱コンクール見学) 昼食 ホストファミリーと対面(多摩市役所)、ホームビジット 宿泊先:京王プラザホテル多摩、明日の服装:カジュアル
第8日		10月26日(日)
多摩  成田	10:00  19:00 20:00	ホテル発(チェックアウト)、移動(バス) 東京都内視察(日本科学未来館、浅草) ホテル着(チェックイン) 夕食(成田ビューホテル) 宿泊先:成田ビューホテル、明日の服装:カジュアル
第9日		10月27日(月)
成田  北京	08:00 08:30 10:30 13:40	ホテル発(チェックアウト)、移動(バス) 成田国際空港着 成田国際空港発(NH905便) 北京首都国際空港着

(2)第2班プログラム:B グループ/C グループ

1. 全体プログラム(東京)

第1日(日本到着日)		11月16日(日)
北京	08:35	北京首都国際空港発(CA181便)
東京	12:50	羽田空港着
	14:00	移動(バス)
	15:00	ホテルメトロポリタンエドモント着(チェックイン)
	15:30-16:30	オリエンテーション(ホテルメトロポリタンエドモント 3階「春琴」) 夕食(各自)
		宿泊先:ホテルメトロポリタンエドモント、明日の服装:ビジネス
第2日		11月17日(月)
東京	08:15	ホテル発
	09:00-09:45	開会式(国際連合大学 5階「エリザベス・ローズホール」)
	10:00-11:30	講義(国際連合大学 5階「エリザベス・ローズホール」)
	12:00-14:00	歓迎交流会(国際連合大学 2階「レセプションホール」)
	14:45	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:ホテルメトロポリタンエドモント、明日の服装:ビジネス
第3日		11月18日(火)
<Bグループ>	08:00	ホテル発
東京	9:00-11:30	東京学芸大学附属世田谷小学校訪問
		昼食
	13:20-16:30	和光小学校訪問
	17:30-19:30	中国大使館教育部訪問
	20:00	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:ホテルメトロポリタンエドモント、明日の服装:ビジネス
<Cグループ>	08:15	ホテル発
東京	9:00-12:00	筑波大学附属中学校訪問
		昼食
	13:45-16:30	立教女学院中学校・高等学校訪問
	17:30-19:30	中国大使館教育部訪問
	20:00	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:ホテルメトロポリタンエドモント、明日の服装:ビジネス

## 2. グループプログラム

### 【Bグループ:熊本県荒尾市】

第4日		11月19日(水)
東京	07:15	ホテル発(チェックアウト) 移動(バス)
	09:15	羽田空港発(JAL309便)
福岡	11:10	福岡空港着、移動(バス)
大牟田	13:30-14:30	昼食
荒尾	15:00-15:30	市長・教育長表敬訪問(於:荒尾市役所 42-43号会議室)
	15:30-16:10	宮崎兄弟生家見学
	16:30-17:30	荒尾市教育委員会概要オリエンテーション(於:荒尾市役所 42-43号会議室)
	18:00-20:00	歓迎交流会(於:ホテルヴェルデ)
大牟田	20:30	ホテル着、チェックイン
		宿泊先:オームタガーデンホテル、明日の服装:ビジネス
第5日		11月20日(木)
大牟田	09:00	ホテル発
荒尾	09:30-12:00	熊本県立荒尾支援学校訪問
	12:30-13:30	昼食
	14:00-17:30	荒尾市立荒尾第三中学校訪問
	18:00	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:オームタガーデンホテル、明日の服装:ビジネス
第6日		11月21日(金)
大牟田	09:00	ホテル発
荒尾	09:30-13:30	荒尾市立中央小学校訪問(給食交流)
	14:00-16:40	荒尾市立緑ヶ丘小学校訪問
	17:10	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:オームタガーデンホテル、明日の服装:カジュアル
第7日		11月22日(土)
大牟田	08:50	ホテル発
荒尾	09:30-11:10	万田坑見学
	11:30-12:30	昼食
	13:00-14:30	松永日本刀剣鍛錬所見学
	15:00-16:00	情報共有会(於:荒尾市役所 42-43号会議室)
	16:00-16:30	ホームビジット対面式(於:荒尾市役所 41号会議室)
	16:30-19:30	ホームビジット
	20:00	ホテル着
		宿泊先:オームタガーデンホテル、明日の服装:ビジネス

## 2. グループプログラム

### 【Cグループ:長崎県長崎市】

第4日		11月19日(水)
東京	08:15	ホテル発(チェックアウト) 移動(バス)
	10:00	羽田空港発(JAL1843便)
	12:05	長崎空港着、移動(バス)
	12:45-13:30	昼食
	14:30	長崎市役所到着
	14:45-15:15	長崎市教育長表敬訪問(長崎市役所本館 3階)
	15:35-16:50	長崎市教育概要オリエンテーション(長崎市役所別館 5階)
	17:30	ホテル着、チェックイン
	18:00	ホテル発
	18:30-20:30	歓迎交流会(於:ホテルセントヒル長崎 3階「あじさい」)
	20:45	ホテル着
		宿泊先:リッチモンドホテル長崎思案橋、明日の服装:ビジネス
第5日		11月20日(木)
長崎	09:15	ホテル発
	9:45-11:00	※バス中にて長崎市の特別支援学級概要説明(長崎市教育研究所 柴田 心) 特別支援学級による体育交歓会見学
	11:15-11:30	質疑応答(バス内)
	12:15-15:25	長崎市立朝日小学校訪問(給食交流)
	16:10	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:リッチモンドホテル長崎思案橋、明日の服装:ビジネス
第6日		11月21日(金)
長崎	08:20	ホテル発
	9:00-13:15	長崎市立東長崎中学校訪問(給食交流)
	14:10-17:30	長崎市立淵中学校訪問
	18:20	ホテル着、夕食(各自)
		宿泊先:リッチモンドホテル長崎思案橋、明日の服装:カジュアル
第7日		11月22日(土)
長崎	09:00	ホテル発
	09:30-11:30	長崎原爆資料館、追悼平和祈念館等見学
	12:00-13:30	昼食
	14:00-15:00	情報共有会(長崎市民会館 2階「視聴覚室」)
	15:30-16:00	ホームビジット対面式(長崎市民会館 1階「大会議室」)
	16:00-20:30	ホームビジット(ホストファミリーよりホテルまで送迎)
		宿泊先:リッチモンドホテル長崎思案橋、明日の服装:ビジネス

### 3. 全体プログラム(福岡)

第 8 日		11 月 23 日(日)
<Bグループ>	10:15	ホテル発(チェックアウト)、移動(バス)
<Cグループ>	09:00	ホテル発(チェックアウト)、移動(バス)
福岡	12:00-13:00	昼食(B・Cグループ合同)
	13:30-15:30	報告会 閉会式(八百治博多ホテル 2階「会議室 C」)
	15:30	チェックイン
		夕食(各自)
		宿泊先:八百治博多ホテル、明日の服装:カジュアル
第 9 日		11 月 24 日(月)
福岡	08:45	ホテル発(チェックアウト)、移動(バス)
	09:30-11:30	九州国立博物館見学、太宰府散策
	11:30-12:15	昼食
	13:00	福岡空港着
	15:10	福岡空港発(CA954 便) 大連経由北京行
北京	15:40	福岡空港発(CA916 便) 上海行
	18:30	北京首都国際空港着
	上海	16:25



### ◆付録3. 参加者リスト

(1)Aグループ34名  
(主に中学校教員)

★团长:A-1 祁品偉(Qi Pinwei)  
☆副团长:A-20 譚軍(TAN Jun)

○秘書長:A-2 馬力(MA Li)

No.	姓名			性別	所在单位 / 所属機関		职务 / 職務	
	中文	日文	拼音 / ローマ字表記		中文	日文	中文	日文
★A-1	祁品伟	祁品偉	QI Pinwei	男	湖北省教育厅对外合作与交流处	湖北省教育厅对外協力交流センター	调研员	調査研究員
○A-2	马力	馬力	MA Li	男	教育部国际司	教育部国際局		
A-3	童苏阳	童蘇陽	TONG Suyang	男	教育部国际司	教育部国際局		
A-4	蒋宏潮	蔣宏潮	JIANG Hongchao	男	北京科技大学	北京科技大学	处长	部長
A-5	房玮	房瑋	FANG Wei	女	山东省威海市教育局	山東省威海市教育局	科员	職員
A-6	胡晓兰	胡曉蘭	HU Xiaolan	女	黄冈市黄州区特殊教育学校	黃岡市黃州區特殊教育學校	主任	主任
A-7	王铁鸿	王鉄鴻	WANG Tiehong	男	老河口市聾哑学校	老河口市聾啞學校	校长	校長
A-8	傅彦	傅彦	FU Yan	女	武汉实验外国语学校	武漢實驗外國語學校	年级组长	学年主任
A-9	郑璇	鄭璇	ZHENG Xuan	女	武汉经济技术开发区第一初级中学	武漢經濟技術開發區第一初級中學校	教师	教師
A-10	童培红	童培紅	TONG Peihong	女	武汉市第四十五中学	武漢市第四十五中學校	德育主任	道德教育主任
A-11	彭彦	彭彦	PENG Yan	女	武汉市马房山中学	武漢市馬房山中學校	教师	教師
A-12	林蓁	林蓁	LIN Zhen	女	武汉市先锋中学	武漢市先鋒中學校	教师	教師
A-13	王丽	王麗	WANG Li	女	武汉市第四十九初级中学	武漢市第四十九初級中學校		
A-14	王英姿	王英姿	WANG Yingzi	女	宜昌外国语学校	宜昌外國語學校	副校长	副校長
A-15	艾晓刚	艾曉剛	AI Xiaogang	男	宜昌市第二十五中学	宜昌市第二十五中學校	副校长	副校長
A-16	程蓉	程蓉	CHENG Rong	女	宜都市杨守敬初级中学	宜都市楊守敬初級中學校	教师	教師
A-17	宋海潮	宋海潮	SONG Haichao	男	湖北省襄阳市第二中学	湖北省襄陽市第二中學校	副校长	副校長
A-18	王俊	王俊	WANG Jun	男	襄阳市第四十三中学	襄陽市第四十三中學校	校长	校長
A-19	王保明	王保明	WANG Baoming	男	襄阳市昭明小学	襄陽市昭明小學校	校长	校長
☆A-20	谭军	譚軍	TAN Jun	男	四川省教育厅国际处	四川省教育厅國際センター	调研员	調査研究員
A-21	杨剑梅	楊劍梅	YANG Jianmei	女	成都市特殊教育学校	成都市特殊教育學校	副校长	副校長
A-22	邓英	鄧英	DENG Ying	女	四川省成都市第七中学	四川省成都市第七中學校		
A-23	冯好问	馮好問	FENG Haowen	男	成都市金牛中学校	成都市金牛中學校	教师	教師
A-24	陈果	陳果	CHEN Guo	男	成都石室双楠实验学校	成都石室雙楠實驗學校	教师	教師
A-25	李代蓉	李代蓉	LI Dairong	女	成都市龙泉驿区第九中学校	成都市龍泉驛區第九中學校	教师	教師
A-26	施淳	施淳	SHI Chun	女	四川省彭州市第一中学碧城实验学校	四川省彭州市第一中學碧城實驗學校	教师	教師
A-27	王安建	王安建	WANG Anjian	男	都江堰市锦堰学校	都江堰市錦堰學校	高级教师	上級教師
A-28	文小玲	文小玲	WEN Xiaoling	女	新津县五津中学	新津縣五津中學校	教师	教師
A-29	王烈	王烈	WANG Lie	男	四川省资中县第一中学	四川省資中縣第一中學校	教师	教師
A-30	高小波	高小波	GAO Xiaobo	女	内江市东兴初级中学校	內江市東興初級中學校	教科室主任	教科室主任
A-31	何瑶	何瑤	HE Yao	女	威远县第一初级中学	威遠縣第一初級中學校	教科室副主任	教科室副主任
A-32	陈兆华	陳兆華	CHEN Zhaohua	女	威远县连界镇初级中学校	威遠縣連界鎮初級中學校	教师	教師
A-33	曾祥芝	曾祥芝	ZENG Xiangzhi	女	威远县特殊教育学校	威遠縣特殊教育學校	教务助理	教務助手
A-34	余自忠	余自忠	YU Zizhong	男	隆昌县第二初级中学	隆昌縣第二初級中學校	教研组长	教育研究 グループ長

(2)Bグループ33名  
(主に小学校教員)

★团长:C-1 何燕(HE Yan)  
☆副团长:B-1 徐福才(XU Fucan)

○秘書長:C-2 馬力(Ma Li)

No.	姓名			性別	所在単位 / 所属機関		職務 / 職務	
	中文	日文	拼音 / ローマ字表記		中文	日文	中文	日文
☆B-1	徐福才	徐福才	XU Fucan	男	广西壮族自治区教育厅	広西チワン族自治区教育厅	调研员	調整研究員
B-2	郭小明	郭小明	GUO Xiaoming	男	内蒙古自治区教学研究室	内モンゴル自治区教学研究室	主任	主任
B-3	田永健	田永健	TIAN Yongjian	男	内蒙古自治区电化教育馆	内モンゴル自治区電化教育館	副馆长	副館長
B-4	李文怡	李文怡	LI Wenyi	女	包钢实验一小	包鋼実験一小学校	教师	教師
B-5	扈欣	扈欣	HU Xin	男	呼和浩特市回民区营坊道回族小学	フフホト市回民区营坊道回族小学校	校长	校長
B-6	张丙换	張丙換	ZHANG Binghuan	女	呼和浩特市回民区太平街小学	フフホト市回民区太平街小学校	校长	校長
B-7	田爱玲	田愛玲	TIAN Ailing	女	呼和浩特市新城区青山小学	フフホト市新城区青山小学校	校长	校長
B-8	李丽英	李麗英	LI Liying	女	呼和浩特市玉泉区民族实验小学	フフホト市玉泉区民族実験小学校	校长	校長
B-9	王红梅	王紅梅	WANG Hongmei	女	呼和浩特市赛罕区南门外小学	フフホト市賽罕区南門外小学校	校长	校長
B-10	吴少琼	吳少瓊	WU Shaoqiong	女	呼和浩特市赛罕区锡林南路小学	フフホト市賽罕区錫林南路小学校	校长	校長
B-11	吕改云	呂改雲	LYU Gaiyun	女	呼和浩特市新城区光华小学	フフホト市新城区光華小学校	校长	校長
B-12	刘嫦	劉嫦	LIU Chang	女	柳州市柳南区实验小学	柳州市柳南区実験小学校	教务主任	教務主任
B-13	唐玲	唐玲	TANG Ling	女	贵港市港北区新世纪学校	貴港市港北区新世紀学校	校长	校長
B-14	沈克虹	沈克虹	SHEN Kehong	女	桂林市汇通小学	桂林市彙通小学校	校长	校長
B-15	张丹东	張丹東	ZHANG Dandong	女	桂林市希望小学	桂林市希望小学校	校长	校長
B-16	马步方	馬步方	MA Bufang	女	南宁市滨湖路小学	南寧市濱湖路小学校	科研处副主任	科学研究部副主任
B-17	雷竺翠	雷竺翠	LEI Zhucui	女	南宁市人民路东段小学	南寧市人民路東段小学校	校长	校長
B-18	覃慧愉	覃慧愉	QIN Huiyu	女	钦州市实验小学	欽州市実験小学校	教师	教師
B-19	周毅	周毅	ZHOU Yi	男	南宁市盲聋哑学校	南寧市盲聾啞学校	校长	校長
B-20	程斌	程斌	CHENG Bin	女	桂林市培智学校	桂林市培智学校	校长	校長
B-21	勾建鸣	勾建鳴	GOU Jianming	男	贵阳市教育局	貴陽市教育局	市政府副县级督学	市庁地方視学官
B-22	张盈	張盈	ZHANG Ying	女	贵阳市实验小学	貴陽市実験小学校	副教导主任	副教務主任
B-23	王玉	王玉	WANG Yu	女	贵阳市南明区南明小学	貴陽市南明区南明小学校	副校长	副校長
B-24	王春	王春	WANG Chun	女	贵阳市南明区尚义路小学	貴陽市南明区尚義路小学校	副校长	副校長
B-25	周云	周雲	ZHOU Yun	女	贵阳市环西小学	貴陽市環西小学校	校长	校長
B-26	吴怡	吳怡	WU Yi	女	贵阳市盲聋哑学校	貴陽市盲聾啞学校	副书记	副書記
B-27	杨黔	楊黔	YANG Qian	男	贵阳市盲聋哑学校	貴陽市盲聾啞学校	教师	教師
B-28	王黔丽	王黔麗	WANG Qianli	女	贵阳市花溪区青岩镇中心完小	貴陽市花溪区青岩小学校	思教主任	思想教育主任
B-29	吕俊新	呂俊新	LYU Junxin	女	贵阳市南明区苗苗实验学校	貴陽市南明区苗苗実験学校	教师	教師
B-30	王永涛	王永濤	WANG Yongtao	女	贵阳市南明区甲秀小学	貴陽市南明区甲秀小学校	教师	教師
B-31	杜鹃	杜鵑	DU Juan	女	贵阳市省府路小学	貴陽市省府路小学校	校长	校長
B-32	方芳	方芳	FANG Fang	女	贵州大学	貴州大学	教师	教師
B-33	廖焯	廖焯	LIAO Ye	女	贵州大学	貴州大学	教师	教師

(3)Cグループ30名  
(主に中学校・高等学校教員)

★团长:C-1 何燕(HE Yan)  
☆副团长:B-1 徐福才(XU Fucui)

○秘書長:C-2 馬力(Ma Li)

No.	姓名			性別	所在単位 / 所属機関		職務 / 職務	
	中文	日文	拼音 / ローマ字表記		中文	日文	中文	日文
★C-1	何燕	何燕	HE Yan	女	内蒙古自治区教育厅	内モンゴル自治区教育厅	处长	処長
OC-2	马力	馬力	MA Li	男	教育部国际司	教育部国際局		
C-3	刘彦泽	劉彦澤	LIU Yanze	男	内蒙古自治区教育科学研究所	内モンゴル自治区教育科学研究所	所长	所長
C-4	代波海	代波海	DAI Bohai	男	包钢第一中学	包鋼第一中學	教师	教師
C-5	胡志云	胡志雲	HU Zhiyun	男	包钢第五中学	包鋼第五中學	教师	教師
C-6	柏俊	柏俊	BAI Jun	男	呼和浩特市教育局	フフホト市教育局	副局长	副局長
C-7	郭炳胜	郭炳勝	GUO Bingsheng	男	呼和浩特市第二中学	フフホト市第二中學	校长	校長
C-8	梁永	梁永	LIANG Yong	男	呼和浩特市第十四中学	フフホト市第十四中學	校长	校長
C-9	杨继恩	楊繼恩	YANG Jien	男	呼和浩特市第三十八中学	フフホト市第三十八中學	校长	校長
C-10	马国梁	馬国梁	MA Guoliang	男	呼和浩特铁路局呼和浩特职工子弟第一中学	フフホト鉄路局フフホト職工子弟第一中學	校长	校長
C-11	王洪志	王洪志	WANG Hongzhi	男	呼和浩特市第六中学	フフホト市第六中學	校长	校長
C-12	张美清	張美清	ZHANG Meiqing	男	呼和浩特市第十八中学	フフホト市第十八中學	校长	校長
C-14	黄敏	黄敏	HUANG Min	女	桂林德智外国语学校	桂林德智外國語學校	科研处主任	科学研究部 主任
C-15	杨晔	楊曄	YANG Ye	女	桂林市桂电中学	桂林市桂電中學	教师	教師
C-16	黄健明	黄健明	HUANG Jianming	男	柳州市第十六中学	柳州市第十六中學	校长	校長
C-17	罗元均	羅元均	LUO Yuanjun	男	柳州市壶西实验中学	柳州市壺西實驗中學	校长	校長
C-18	李相阳	李相陽	LI Xiangyang	男	桂林德智外国语学校	桂林德智外國語學校	校长	校長
C-19	陆卓莉	陸卓莉	LU Zhuoli	女	南宁市天桃实验学校中学部	南寧市天桃實驗學校中學部	政教副主任	政治思想教育副 主任
C-20	张焰	張焰	ZHANG Yan	女	南宁市第十七中学	南寧市第十七中學	校长	校長
C-21	韦鸿敏	韋鴻敏	WEI Hongmin	男	来宾实验学校	來賓實驗學校	校长	校長
C-22	陆璇	陸璇	LU Xuan	女	北海市第五中学	北海市第五中學	教师	教師
C-23	江莉	江莉	JIANG Li	女	贵阳市清华中学	貴陽市清華中學	副主任	副主任
C-24	蔡瑞丰	蔡瑞豐	CAI Ruifeng	男	贵阳市第二实验中学	貴陽市第二實驗中學	副主任	副主任
C-25	谭宏	譚宏	TAN Hong	男	贵阳中天中学	貴陽中天中學	工会主席	教職員組合 委員長
C-26	黄玉芬	黄玉芬	HUANG Yufen	女	贵州师范大学附属中学	貴州師範大學附屬中學	教师	教師
C-27	蒋琦	蔣琦	JIANG Qi	男	贵阳市第十四中学	貴陽市第十四中學	总务处主任	總務部主任
C-28	罗林	羅林	LUO Lin	男	贵阳市第十七中学	貴陽市第十七中學	总务处主任	總務部主任
C-29	李林	李林	LI Lin	女	贵阳市第十八中学	貴陽市第十八中學	组织员	共產黨組織員
C-30	付永武	付永武	FU Yongwu	男	贵阳市第十九中学	貴陽市第十九中學	人事干部	人事管理職
C-31	姜再平	姜再平	JIANG Zaiping	男	贵阳市新世界国际学校	貴陽市新世界國際學校	教师	教師
C-32	毛东文	毛東文	MAO Dongwen	男	北京师范大学贵阳附属中学	北京師範大學貴陽附屬中學	副校长	副校長

## ◆付録 4. 関係機関リスト

### (1) 全体プログラム

#### 国際連合大学(UNU)

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前 5-53-70

TEL: 03-5467-1212

URL: <http://jp.unu.edu/>

#### 文部科学省(MEXT)

##### 大臣官房国際課

〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

TEL: 03-5253-4111

URL: <http://www.mext.go.jp>

#### 中華人民共和国教育部

##### 国際協力交流局アジア・アフリカ課

〒100-816 中国北京市西单大木仓胡同 35 号

TEL: +86-10-6609-6650

URL: <http://www.moe.edu.cn/>

#### 中華人民共和国駐日本国大使館

〒106-0046 東京都港区元麻布 3-4-33

TEL: 03-3403-3388

URL: <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

#### 中華人民共和国駐日本国大使館教育処

〒135-0023 東京都江東区平野 2-2-9

TEL: 03-3643-0305

URL: <http://www.china-embassy.or.jp/jpn/>

#### 中華人民共和国駐大阪総領事館

〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 3-9-2

TEL: 06-6445-9481

URL: <http://osaka.china-consulate.org/jpn/>

#### 在中華人民共和国日本国大使館

〒100-600 中国北京市亮馬橋東街 1 号

TEL: +86-10-8531-9800

URL: [http://www.cn.emb-japan.go.jp/index\\_j.htm](http://www.cn.emb-japan.go.jp/index_j.htm)

#### 外務省

##### 大臣官房外務報道官・広報文化組織国際文化協力室

〒100-8919 東京都千代田区霞ヶ関 2-2-1

TEL: 03-3580-3311

URL: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

(2)グループ・プログラム(受入自治体)

A. 東京都多摩市教育委員会

教育長:清水 哲也

担当者:教育部教育指導課 統括指導主事 石井正広

〒206-8666 東京都多摩市関戸 6-12-1

TEL: 042-375-8111 FAX: 042-337-7620 URL: <http://www.city.tama.lg.jp/>

B. 熊本県荒尾市教育委員会

教育長:丸山 秀人

担当者:教育振興課 指導主事 森川直美

〒864-8686 熊本県荒尾市宮内出目 390

TEL: 0968-62-1256 FAX: 0968-62-1218 URL: <http://www.city.arao.lg.jp/>

C. 長崎県長崎市教育委員会

教育長:馬場 豊子

担当者:学校教育課 指導主事 久松千樹

〒850-8685 長崎県長崎市桜町 2-22

TEL: 095-829-1195 FAX: 095-829-1298 URL: <http://www.city.nagasaki.lg.jp/>

★実施団体

公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484 東京都新宿区袋町 6 日本出版会館

TEL: 03-3269-4498 FAX: 03-3269-4510

Email: [exchange@accu.or.jp](mailto:exchange@accu.or.jp)

URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫  
理事長

木曾 功  
理事

二ノ宮 正和  
総務部長

佐々木 万里子  
人物交流部長

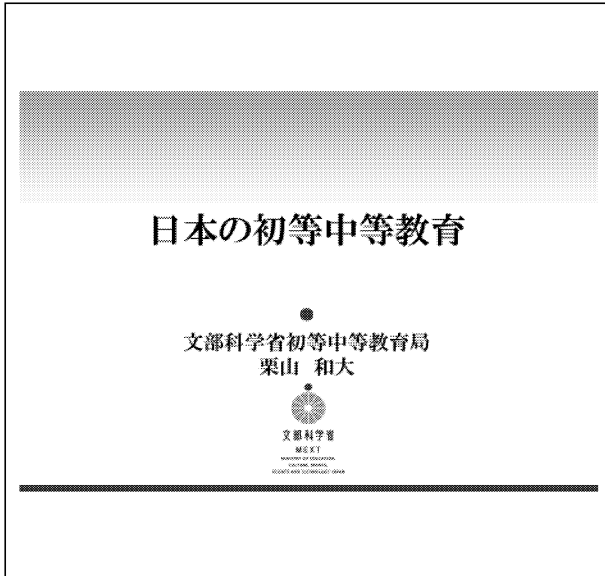
米島 百合子  
人物交流部主任

富本 ひろみ  
人物交流部事務専門員

有菌 佳子  
人物交流部事務専門員

(所属・肩書はプログラム実施時のもの)

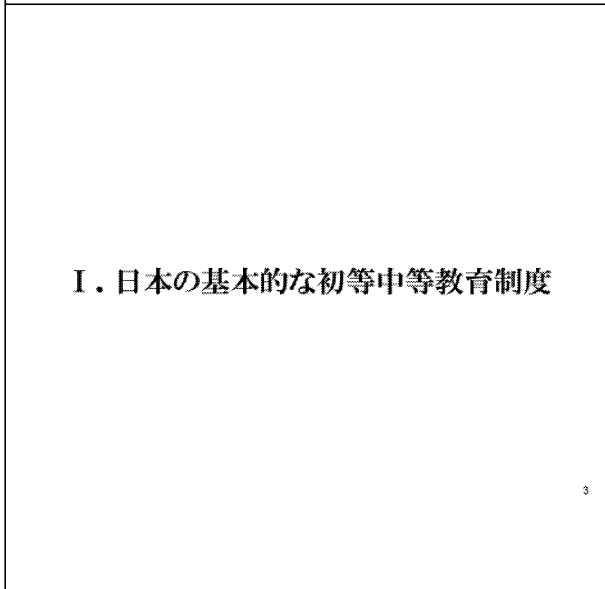
◆付録 5. 文部科学省講義資料



講演の構成

- I. 日本の基本的な初等中等教育制度
- II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

2



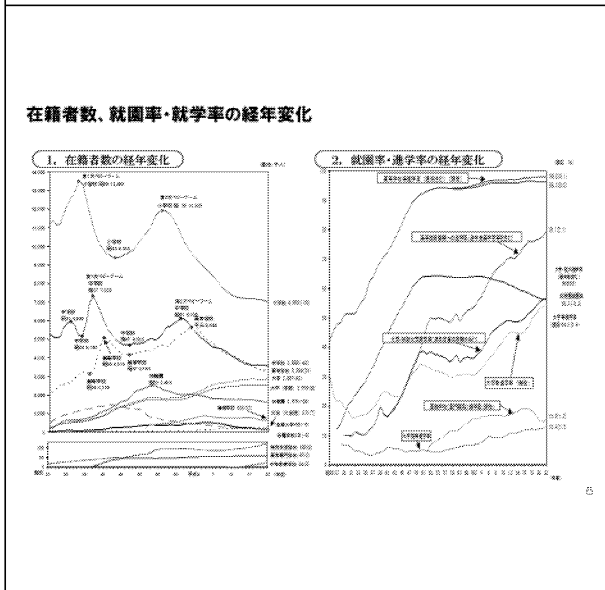
学校数、在籍者数、本務教員数

学校種	学校数 (校数)	在籍者数 (人)	本務教員数 (人)
幼稚園	13,943	1,563,610	111,111
小学校	21,131	6,476,900	417,533
中学校	10,628	3,336,182	254,235
高等学校	4,951	3,319,640	233,062
中等教育学校	50	30,236	2,369
特別支援学校	1,060	182,570	77,663
合計	50,913	15,279,148	1,097,983

(出典: 文部科学省「平成26年度学校基本調査報告書」より)

3

4



5

義務教育制度の概要

憲法

第26条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

教育基本法

第5条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

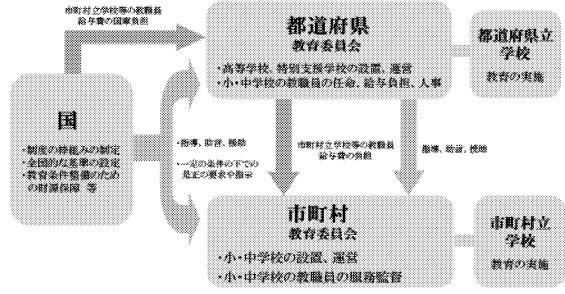
2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

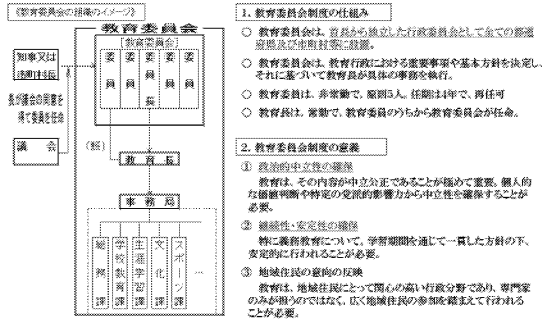
4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

6

**教育行政制度の概要(国・都道府県・市町村の役割)**



**教育委員会制度の概要**



**教育基本法(平成18年12月成立)の概要**

**教育の目的・理念**

(1) 教育の目的・理念を明示

- ① 教育の目的として「人格の完成」、「国家・社会の形成者として心身ともに健康な国民の育成」を規定
- ② この教育の目的を実現するために今日重要と考えられる事柄を「教育の目標」として規定

**<教育の目標の例>**

- 幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健全な身体
- 能力の伸長、自主・自律の精神、職業との関連を重視
- 正義と責任、自他の敬愛と協力、男女の平等、公共の精神
- 生命や自然の尊重、環境の保全
- 伝統と文化の尊重、我が国と郷土を愛し、他国を尊重、国際社会の平和と発展に寄与

(2) 「生涯学習の理念」「教育の機会均等」

**学習指導要領①**

- 教育基本法の改正等を含め、平成20年に、幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領を、平成21年に、高等学校学習指導要領、特別支援学校学習指導要領を改訂。
- 小学校では20年度、中学校では24年度から全面実施、高校では25年度入学生から年次進行で実施。

**学習指導要領の改訂のポイント**

- 1. 学習指導要領改訂の基本的な考え方**
  - ① 教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成
  - ② 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視
  - ③ 道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や様々な力を育成
- 2. 総学習時間の増加(小・中学校)**
  - 国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育、外国語の総学習時間を約1割増加
  - 適当なコマ数を小学校低学年で選2コマ、小学校中・高学年、中学校各学年で選1コマ増加
- 3. 必修科目目、教育課程編成時の配慮事項等(高等学校)**
  - 学習の基礎となる国語、数学、外国語に共通必修科目を設定するとともに、理科学科目履修の柔軟性を向上
  - 義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることを促進

**学習指導要領② 一教育内容の主な改善事項**

- 【新学習指導要領における教育内容の主な改善事項】**
- ① 言語活動の充実**
    - 言語活動は、知能活動(論理や思考)、コミュニケーション、感情・情緒の基盤、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むため、国語をはじめ各教科等において、知識・技能を活用してレポートの作成や論述を行うなど言語の力を高める学習を実施。
  - ② 理数教育の充実**
    - 国際的に通用するスキルを身につけるとともに、新しい科学知見を取り入れるため、学習内容を充実。算数・数学では、大切な内容を繰り返して学習することや、学習の中で子どもが自ら発見することや探究的な学習、理科では、観察や実験を実施する。
  - ③ 伝統や文化に関する教育の充実**
    - 国際社会で活躍する人材の育成を図るため、我が国や郷土の伝統や文化について理解を深め、そのよさを継承・発展させるための教育を実施する。
  - ④ 道徳教育の充実**
    - 道徳の時間を通して、学校の教育活動全体を通じて子どもたちの道徳性を養う。
  - ⑤ 体験活動の充実**
    - 子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むため、小学校で自然の中での集団宿泊活動、中学校で職場体験活動などを実施。
  - ⑥ 外国語教育の充実**
    - 小学校3、6年生における「外国語活動」の導入、中・高等学校における指導要領の充実や「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育成することや、小・中・高等学校を通じて外国語教育を充実する。
  - ⑦ 健全な心身の育成**
    - 子どもたちが生涯にわたって健康を保持増進するとともに、豊かなスポーツライフを実現する基盤を培うため、健康で安全な生活を営む実践力を育成し、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう体育・保健体育を充実する。

**教員養成・免許制度の概要**

**【免許主義】**

教員は、教育職員免許法により授与される各担当の無資格者を有する者でなければならない。

**【教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上】**

**養成**

- 大学における養成課程
- 教職課程(認定受検科目等)において、教科に関する科目、教職に関する科目などを修得することにより、採用当初から学級や教科を担当し、教科指導、生徒指導等を実施するために必要な最小限の資質能力を養成

**採用**

- 都道府県・指定都市教育委員会等において採用選考試験を実施
- 多面的な人物評価の一環の推進
- 面接試験・実技試験の重視
- 様々な社会体験等の評価

**研修**

- 都道府県教育委員会等における研修
- 新任者研修・30年経過後研修等
- 国(教員研修センター)における研修
- 各地域において中心制を担う教員に対する学校運営研修
- 喫緊の重要課題研修等

**適切な人事管理**

- 指導が不適切な教員に対する人事管理システムの適切な運用
- 教員研修システム
- 優秀教員表彰

**免許更新制**

- 教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることが目的
- 免許状に10年の有効期間を設定

## II. 日本の現状認識と教育政策の方向性

13

## 日本の現状に対する認識

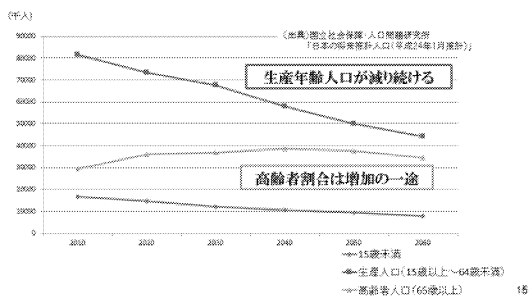


1. 少子化・高齢化の進展
2. 子供の貧困率の上昇
3. 我が国の国際的な存在感の低下

14

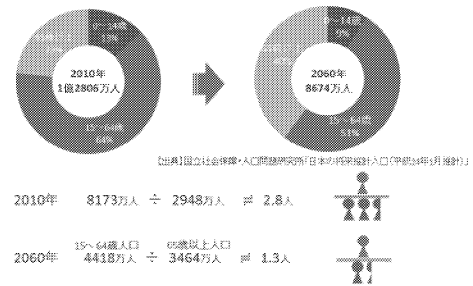
### 1. 少子化・高齢化の進展

少子化の急激な進行により、生産年齢人口が大きく減少



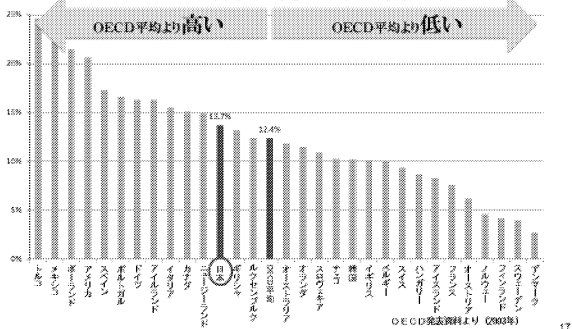
### 生産年齢人口と非生産年齢人口の比率の変化

2010年には2.8人で1人を支えているが、2060年には1.3人で1人を支えることになる

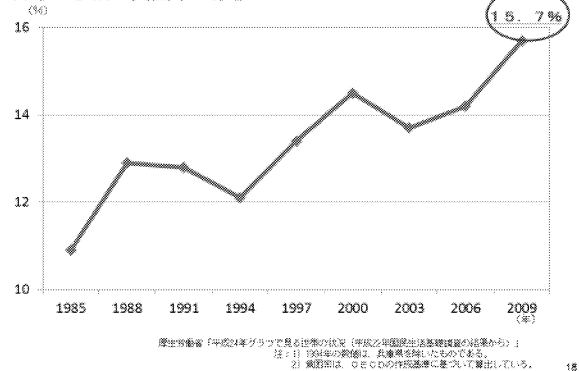


### 2. 子供の貧困率の上昇

#### OECD諸国に見る子供の貧困率



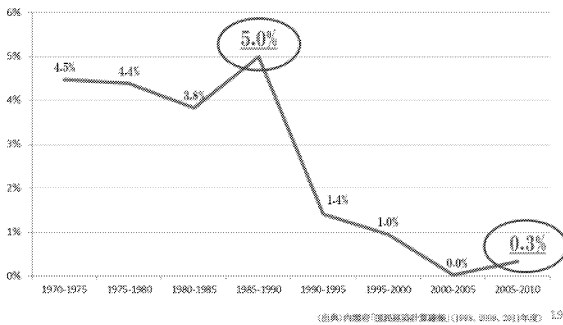
### 日本の子供の貧困率の推移





### 3. 我が国の国際的な存在感の低下

実質GDP成長率は20年間で5.0%から大きく低下



新興国が経済成長する一方、日本の存在感が相対的に低下

#### GDPの伸びと高等教育進学率(1990→2009)

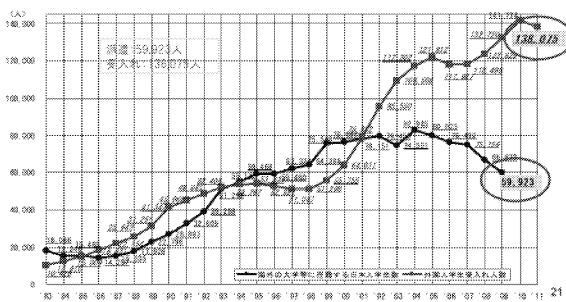
	<GDP伸長>	<進学率>
・韓国	3.1倍	37%→71%
・中国	12.5倍	3%→17% (29万人→262万人)
・タイ	3.1倍	16%→46%
・オーストラリア	3.1倍	35%→94%
・日本	1.6倍	36%→56% (短期大学含む)

(出典)文部科学省「人材のイノベーションによる日本再生に向けて」

20

### 日本人の海外留学者数

外国人留学生は頭打ち、日本人学生の内向き志向



21

「超高齢社会」と「グローバル社会」が同時に到来



今こそ「教育再生」が必要

- 生産年齢人口の減少にあった人材育成  
➡ 個人の付加価値を高める
- 海外でチャンスをつかめる人材育成  
➡ グローバルマインド・スキルの育成

22

「これから求められる力」



- クリエイティブにももの考える力
- 自立的に考え、活動する力
- 優しさや思いやりなどの感性

23

現状認識を踏まえた教育政策



「これから求められる力」を育むための環境づくり

- 政策1. グローバル人材育成
- 政策2. 教職員指導体制の整備
- 政策3. 高校教育改革

24





◆付録6. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
第1回:2002年12月1日～14日	東京都、和歌山県、岡山県、広島県、高知県、大阪府、京都府	97名
第2回:2003年11月26日～12月9日	東京都、熊本県、愛知県、島根県、徳島県、大阪府、京都府、奈良県	100名
第3回:2004年11月18日～12月1日	東京都、宮城県、長崎県、宮崎県、沖縄県、大阪府、京都府、奈良県	99名
第4回:2005年10月18日～31日	東京都、長野県、福井県、和歌山県、宮崎県、大阪府	101名
第5回:2006年10月18日～31日	東京都、千葉県八街市、埼玉県、岐阜県、高知県、山口県柳井市、大阪府、奈良県	135名
第6回:2007年10月16日～29日	東京都、千葉県八街市、岡山県総社市、富山県南砺市、三重県、岐阜県、大阪府、奈良県	135名
第7回:2008年10月14日～27日	東京都、宮城県気仙沼市、福島県、京都府与謝野町、香川県、福岡県北九州市、大阪府、京都府	133名
第8回:2009年10月13日～26日	東京都、岡山県総社市、熊本県植木町、沖縄県那覇市、千葉県成田市、埼玉県さいたま市、大阪府、京都府	142名
第9回:2010年10月12日～25日	東京都、秋田県大仙市、滋賀県近江八幡市、宮城県気仙沼市、長崎県壱岐市、長崎県、大阪府、京都府	130名
第10回:2011年10月12日～23日	東京都、山口県美祢市、熊本県荒尾市、東京都多摩市、岡山県総社市、徳島県、大阪府、京都府	134名
第11回: 第1班:2013年11月13日～24日 第2班:2013年12月1日～10日	第1班: 東京都、大阪府 第2班: 東京都	第1班: 50名 第2班: 49名
第12回:2013年10月20日～28日	東京都、熊本県荒尾市、岡山県総社市、長崎県長崎市、和歌山県、大阪府	59名
第12回:(追加プログラム) 2014年9月21日～29日	東京都	29名
第13回: 第1班:2014年10月19日～27日 第2班:2014年11月16日～24日	第1班: 東京都、東京都多摩市 第2班: 東京都、熊本県荒尾市、長崎県長崎市、福岡県	第1班: 34名 第2班: 63名

計1,490名

●国際連合大学 2014-2015 年国際教育交流事業●

中国教職員招へいプログラム

実施報告書

2015 年 3 月

編集・発行

国際連合大学(UNU)

〒150-8925

東京都渋谷区神宮前 5-53-70

電話 (03) 5467-1212

URL <http://jp.unu.edu/>

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484

東京都新宿区袋町 6 番地 日本出版会館

電話 (03) 3269-4498

URL <http://www.accu.or.jp>

Printed in Japan by Waco Inc. [100]

©2015 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)